

防犯ボランティアフォーラム2011

開催記録



平成23年10月

警察庁生活安全局生活安全企画課

目次

●開 会

宮城警察庁生活安全企画課長あいさつ	1
-------------------------	---

●発 表

関の子広場パトロール隊（福島県）	2
千葉科学大学 学生警察支援サークル「スターラビッツ」（千葉県）	9
登美丘地区防犯委員会（大阪府）	17
防犯パトロール隊かつやま（山口県）	24
足立区役所（東京都）	30
大垣市役所（岐阜県）	37

●講 評

赤松警察庁生活安全企画課都市防犯対策官	45
---------------------------	----

防犯ボランティアフォーラム2011開催

○司会 大変長らくお待たせいたしました。ただいまから、「防犯ボランティアフォーラム2011」を開催いたします。

私は、本日の司会を担当させていただきます警察庁生活安全局生活安全企画課の林と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、主催者を代表いたしまして、警察庁生活安全企画課長の宮城からご挨拶を申し上げます。



警察庁生活安全企画課 宮城課長あいさつ

警察庁生活安全企画課長の宮城でございます。

本日は皆様ご多用中のところ、このように多くの方々にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、皆様方にはそれぞれの地域におきまして、安全で安心なまちづくりのために多大なご尽力をいただきまして、心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

最初にこのフォーラムを開催することになりました経緯等につきまして簡単にご説明させていただきます。

治安情勢でございますが、平成初めのバブル崩壊後急激に悪化いたしました。昭和の時代、刑法犯の認知件数は150万件前後で推移しておりました。これが平成10年には200万件を突破いたしまして、平成14年には285万件と過去最悪を記録いたしました。このような状況を受けまして、平成15年に政府は犯罪対策閣僚会議を立ち上げまして、国をあげて治安体制の強化に着手しました。平成18年には10月11日を「安全・安心なまちづくりの日」と定めまして、この前後の期間に地域の安全に向けた取組を集中的に行うこととなりました。防犯ボランティアフォーラムも、こうした取組の一環としてこの時期に開催されることとなりました。

防犯ボランティア活動につきましては年々活発化しております。平成22年末には団体数で4万5,000団体、270万人の方が活動に参加されました。平成15年の時点が約3,000団体でございましたので、約15倍もの規模に拡大したことになります。

こうした官民挙げての取組によりまして、刑法犯の認知件数も平成15年以降、8年連続で減少し、昨年は158万件とピーク時であった平成14年の55%とほぼ半分までにまで減少しています。治安情勢は着実に改善しておりますけれども、昨今の経済の不安定化等の問題を背景に、子どもや女性、高齢者といった社会的弱者が被害を受ける事件が増えるなど、まだまだ国民が安心して暮らせる状況までに至っておりません。引き続き警察のみならず、自治体、そして防犯ボランティア団体の皆様と連携を強化して活動を進めていきたいと思っております。

本日の防犯ボランティアフォーラムでは、地域の特性に応じて活動を展開しておられる4つの団体の皆様から発表をいただきます。また、今回は、防犯ボランティア活動の支援や防犯カメラの設置など治安対策を積極的に進めていただいております、東京都足立区と岐阜県大垣市からも発表をいただきます。

防犯活動に携わられるボランティアの方々と自治体との相互理解が深まるよう、是非活発な意見交換をしていただければと思います。本日のフォーラムが実りあるものになりますことを祈念いたしまして、開会のごあいさつとさせていただきます。



関の子広場パトロール隊（福島県）



揃いのユニホームによる活動！

地域住民による自主防犯活動

1 地域紹介と施設開設

当地区勿来は、福島県いわき市の最南部、茨城県との県境に位置しています。春は桜の名所日本三古関の一つ県立自然公園『勿来の関』、夏はいわき七浜の一つ勿来海水浴場を有し、県内外の観光客で賑わう地区で様々な人々が往来する場所に、まさしく犯罪や非行を地域から追放する関所としての役割を備えた『関の子広場』が設置されています。

平成14年頃から駅周辺における自転車盗難の増加や少年のい集等の問題が浮上し、地元の自治会、学校、PTA等が中心となって「学区内健全育成会」が結成され、子ども見守り活動や補導活動を実施しましたが大きな効果は得られませんでした。そこで、行政や警察の指導協力を得て、活動趣旨に賛同する地元住民の手によるボランティア団体を結成し、住民が主体で運営する勿来駅前安全安心拠点施設『関の子広場』を平成19年6月1日に開所しました。

2 「関の子広場」の概要

- 設置場所 JR常磐線勿来駅前（いわき市の所有地）
- 建物 『関の子広場』として24.22㎡の単独棟
- 活動人員 関の子広場サポーターとして約80名が登録
（多くが活動に賛同している地元住民）
- 関係機関団体 14団体（全ての団体が運営委員として加盟）

- 活動日時 月曜日～土曜日 午前9時30分～午後7時00分
3交代（1日あたり10～15人）で地元住民のサポーターが常駐
各運営委員の団体から毎日1～2名が参加協力

3 活動(事業)内容

- (1) 地域の安全パトロール
小・中・高校生の登下校時間帯の徒歩による見守り活動や午後に2～3回の車両による定期防犯パトロールを毎日実施。また、不審者情報に基づく緊急防犯パトロールも実施。
- (2) 少年の健全育成・非行防止活動
駅を利用する少年等への健全育成を願った声掛け、警察署や学校と連携しての自転車マナーの指導、街頭キャンペーン等を実施しての自転車盗難抑止活動。
毎週水曜日は勿来高校生、月に1回は勿来第二中学校の生徒参加による駅トイレや周辺施設の環境美化活動。
- (3) 高齢者・独居老人宅の訪問支援
市福祉センターと共同により、家庭訪問や清掃活動等を実施。また、見守りマップを作成。
- (4) 東日本大震災における活動
東日本大震災発生当初から、被災住民の避難所への移動誘導・介助を実施。その後避難所に対する支援物資やライフラインが壊滅した各家庭への生活用水搬送等を実施し、震災により弱まっていた地域の絆を再生復活させる原動力となり、住民の不安解消に大きく役立った。
- (5) その他
地域の安全安心に関する情報発信・情報交換・相談受付。来訪者への観光案内、荷物一時預かり、自転車の修理。地域安全活動関係の各種広報啓発活動等、来所される方々を幅広く受け付けている。

4 活動効果

放置自転車、駅周辺の投棄ゴミ、少年のい集、道路危険箇所等について激減しており、犯罪発生数や少年非行数の減少に効果をあげています。

5 今後の課題

- (1) 関の子広場サポーターの研鑽及び増強
地元「関の子広場」の存在が浸透するにつれて、住民からは頼られる存在となってきました。今後は、機会を設けながらサポーターの知識研鑽に努めていきたいと考えています。また、現在、私たちの地域は東日本大震災復興の最中であり、サポーターの全員が被災者のため、各々の家の復旧の中、時間を作り活動を継続している状況です。地域の絆を深めるために、より広く多くのサポーター獲得に努めたいと考えています。
- (2) 運営の継続及び堅持
安全安心な街づくりには、活動の継続と積み重ねが重要だと考えています。そのために、年間12万円程の施設維持費を今後も継続して賄うことができるように、地域に「関の子広場」の活動を根付かせる働きかけを考えていきます。

関の子広場パトロール隊（福島県）

福島から参りました「関の子広場パトロール隊」の日渡と申します。本日会場には、私たちサポーター6名の外、いわき南警察署の生活安全課長、アシスタントをしてくれる福島県立勿来高等学校の生徒会長清野さん、そしてご指導の先生も来られております。現在被災をしている中で、このように多人数でこのフォーラムに参加できることを大変光栄に思っております。



「関の子広場」の紹介

「関の子広場」は、福島県いわき市の最南部、勿来（なこそ）地区にあります。福島県は、浜通り、中通り、会津地方と3地区に分かれております。浜通りは今回の震災で大きな被害を受けました。勿来地区は海岸線から500m足らずのところにあります。3月、4月となると、桜の名所、日本三古関の一つ「勿来の関」が有名ですが、今回の震災と原発事故の影響で観光客が全然訪れない状況でした。夏も毎年多くの海水浴客が訪れる勿来海水浴場で、今年は泳ぐ人を全く見かけませんでした。秋の紅葉シーズンもほとんど観光客は望めないのではないか、そんな思いの中で、私たちは活動を行っております。また、私たち自身も被災をしています。サポーターの中には、やむなく避難生活を送られている方もおります。

「関の子広場」は、地域の安全確保と非行の未然防止の2つを柱に、青少年の健全育成を進めるため、安心・安全の拠点施設として開所されました。

かつて、当地区は非行の比較的少ない、犯罪に強い地域でした。しかし、平成14年頃から全国的な流れの中で、当地域も生徒たちの校外生活指導の問題が生じ、「学区内健全育成会」を地元の各種団体に声をかけて結成しました。しかし、それでも犯罪が減少しなかったことから、区長をはじめ関係団体の方々に呼びかけて、交番を設置していただけるよう陳情を行いました。実現には至りませんでした。そこで、地域住民が主体となった民間交番をつくろうということになったのです。

果たして地域住民で何ができるのか、バックに警察行政があるというだけで、地域の安全安心の拠点として成り立つのだろうかとの不安もありましたが、とにかくはじめようということで、平成19年6月1日に、住民主体で運営する安全安心拠点「関の子広場」が開所されました。

施設概要

ご覧になっておわかりのように、防犯灯の「コウバン」の文字が「交」ではなく「公」、「公番」となっています。これには、地域全体で番所の役割をしようという思いが込められています。

施設の規模は24.22㎡で8坪程度。市所有の土地に各種企業の協力を得て、この建屋ができました。

構成員は、地元住民です。私たちはサポーターと呼んでいますが、揃いのユニフォームを着て地域パトロール等の活動にあたっています。ユニフォームのグリーンは今では「関の子カラー」ということで、地域に浸透しています。

活動日時については、ここでは月曜日～土曜日となっておりますが、実際、今は皆さん震災後の復旧

に追われているものですから、なかなかこのセッションは難しい状況にあります。そんな中で、今は月曜日～金曜日、何かイベントがあるときには土曜日、日曜日も対処する。あるいは、災害異変とか、今回の震災のような特別なことが起こった場合には、休みなしで開ける。時間は、午前9時30分から午後7時までですが、お正月、初詣の参拝客が訪れるお寺や神社のある場所では、夜中のパトロールをしたり、お盆の夏祭りの会場では、屋台が出ることから、積極的に防犯協会等との連携をとりながら、祭りが終了するまでの防犯パトロールを実施するなどしています。

体制は、一日3交代で活動しています。大体1セッションが3～4時間で、駐在人数は3名～5名。そこにプラスアルファとして、各種関係団体からの運営委員が参加します。具体的には、民生委員や同志会、安全協会など、14団体の方が参加し、サポーターと運営委員が協力して、さまざまな活動を行っています。

2. 施設概要



平成19年6月1日 開所
場所: JR常磐線勿来駅前駐輪場
規模: 24. 22㎡

「交番」ではなく、「民間公番」です。
地域住民主導で設置されました



構成員(サポーター)



鮮やかな黄色のユニフォーム

地域住民約80名の手で運営されています



活動(事業)内容

それでは、ここからは、私たちの事業内容について写真をまじえながら紹介させていただきます。私たちの事業には、

- ①地域の安全パトロール
- ②在所補導活動、非行防止事業
- ③警察官による立ち寄り警戒活動
- ④地域の安全・安心に関する情報交換事業
- ⑤地域の安全・安心に関する相談事業
- ⑥地域の安全・安心に関する情報等の発信に関する事業
- ⑦青少年とボランティアとの共同・交流事業
- ⑧拠点施設を活用して行うことが効果的と考えられる事業

があります。

(1)地域の安全パトロール

小・中・高生の見守り活動



まず、①地域の安全パトロールです。

この写真をご覧ください。これは、震災直後に、鹿児島県警が応援で入っているときに、鹿児島県警といわき南警察署のパトカーとサポーターが共同で子どもたちの見守り活動を行っているところです。

次の写真です。私たちの地域は原発から70km～80km離れていますが、放射線量がやはり心配な場所です。そうした中で、地域包括支援センターで高齢者を見守る活動をしているNPOの方々と協力をして、

放射線測定器を持って高齢者のお宅を伺いながら、困りごとなどがあるかということを見回り活動の一環として行いました。

次に、②在所補導活動、非行防止事業です。

これに関しては、常にいわき南警察署、勿来高校、あるいは他の防犯団体と共同で活動を行っています。

次に、③警察官による立ち寄り警戒活動ですが、最近の活動としては、地元スーパーの前で震災に合わせて義援金詐欺等が多発しているということで、福島県警と共同で防犯チラシを配布して被害予防を呼びかけました。

続いて、④地域の安全安心に関する情報交換事業です。

「関の子広場」が開所する以前は放置自転車、盗難自転車の問題が多々ありましたので、いわき南警察署と連携を図りながら、これらの発見活動や駅前、学校の登下校の道路で落し物があった場合の拾得物の一時預かりを行っています。それから、不審者発生時の緊急パトロールがあります。いわき南警察署の方から連絡が入った場合は、率先して地域のパトロールを実施しています。また、何か事件が発生していわき南警察署から自動車のナンバーチェックの依頼を受ければ、街頭に出てナンバーチェックなども行っています。さらに、立地的に常磐線と国道6号線との間ということで、国道6号線で交通事故などが発生した場合には、二次的事故を防ぐために交通整理なども行っています。行政との連携については、市、県、国、全て連携がとれるような形になっており、とくに地元区長とは常々連携をとりながら活動を行っています。

次に、⑥地域の安全・安心に関する情報等の発信に関する事業についてです。ボランティアが高齢者の見守り活動を行うに際して、専門家とどのように関わっていくか、ということを考えており、まずは「見守りマーク」などを作成し、先ほどご紹介したように高齢者宅を訪問して放射線の測定を行ったりしています。今後、運営委員会を含めてより良い活動を検討していきたいと考えています。

次に、⑦青少年とボランティアとの共同・交流事業です。私たちは、「関の子広場」を開所した頃から青少年とサポーター（地域住民）がどのようにコミュニケーションを図っていくかということを中心に大きな課題として考えていました。そのような中で、地元の勿来高校の生徒の皆さんは、学校を挙げて私たちの活動に協力してくれています。参加してもらっている活動は、小学生の見守り活動や地域の清掃活動などがあり、また、ふれあいの場としてもちつき大会を開催したりしています。生徒の皆さんの活動は、「高校生日誌」に記載してもらい、私たちの施設の中に保存させていただいています。

最後に、⑧拠点施設を活用して行うことが効果的と考えられる事業を紹介します。毎年、夏休みなどに勿来地区に訪れた観光客に対して観光案内や荷物預かりを実施しています。また、地元自転車屋がないことから、自転車の修理も行っています。放置自転車等の回収を行い、いわき南警察署に照会した後、手続きを踏んでリサイクルし、地元の方々に還元するというような活動も行っています。それから、アルミ缶、エコキャップ、プルタブ等の回収を中学校と連携して行い、そこで得た資金で福祉施設へ車いすやコンロ等を寄付したりしています。

(1)地域の安全パトロール

日々の地域パトロールおよび放射線量測定



(4)青少年とサポーターの共同活動



高校生が活動日誌をつけている様子

毎年12月の恒例行事「もちつき大会」



活動の成果

私たちのこれまでの活動の成果ですが、放置自転車、駅周辺の投棄ゴミ、少年のい集等が激減しています。とくに放置自転車については、私たちの目の前にある駐輪場から放置自転車が見つかった例は、過去4年間で記憶にあるだけでも数件ではないかと思えます。

活動実績

- 放置自転車、放置ゴミの激減
- 危険箇所の減少
- 非行犯罪の減少(盗難自転車等)

年度	刑法犯総数	窃盗犯	侵入盗	車上狙い	自転車盗
H18	171	129	22	25	32
H21	138	93	15	12	16
H22	96	71	19	7	6

東日本大震災における活動と今後の方針

3月11日の地震発生と同時に、地元住民の避難誘導を行いました。そして、支援・救援物資の配達。断水等が長引いたため、サポーターと高校生が高齢者宅を見回りながら、支援物資を配達しました。また、他の地区から支援物質が届いてないとの連絡があり、届けに出向いたりしました。

このように、私たち関の子広場は、自らも被災をしている中で、地域の安全のためには動ける人間は動くという気持ちで、これからも活動を続けていくつもりであります。

活動資金の問題もありますが、これは行政、警察、地元の理事会等に呼びかけて、恒久的な財源確保の方法を考えていきたいと思っています。

私たちは、次の5つの合い（愛）言葉を活動指針としています。

「思い合い」、「認め合い」、「支え合い」。この3つは、いわき市のユニバーサルデザインの言葉になっていますが、これに「見守り合い」と「声かけ合い」を入れて、関の子広場の5つの合い言葉としています。

自分たちの生活共同エリア、生活共同体である地域を安心と安全のために、自分たちの手で守っていかなければならない。だから、震災には負けていけないという気持ちで、今後も自主防犯意識の高揚をはかっていきたいと思っています。

3.11 東日本大震災時の活動

避難所への炊き出し



高校生の活動

地元婦人会の活動



●質問 さきほどのお話では自治会とか町内会とかの話があまり出ませんでした。自治会や町内会とはどのような関係にあるのか、お聞かせいただけますか。

○回答 こちらでは町内会ではなく自治会ですが、自治会の方々は運営委員という形で参加しています。行政に関することは私たちが勝手に進めることはできませんので、常に自治会の方々と連携をとっております。また、サポーターの中にも自治会の役員がたくさんいます。あえ

て自治会のことを出さなかったのはそのような理由です。

- 質問(ご感想)** 私も福島県出身で、みなさんのお話を伺って大変勇気もらいました。特に、勿来高校のみなさんの活動ぶりに感動いたしました。これからも頑張ってください。
- 質問** さきほど、夜中にパトロールを行うというお話がありましたが、どういうときに、どういう方たちがパトロールをされているのか教えていただけませんか。また、青少年の方々がいろいろな活動に参加されております。青少年をわれわれの仲間に取り入れるというのは難しいことなのですが、どのように現在の関係を築かれたのかお聞かせ願えますか。
- 回答** 夜中のパトロールは、大晦日にお寺や神社にお参りに行く方々の安心安全のために行っています。学校の健全育成会、その会長にはPTA会長になるわけですが、その会長さんを通してPTAの男性の方々に応援を要請しています。パトロールは私たちサポーターと共同、あるいは防犯協会の方々と共同という形で行っています。それから、高校生に関しては、学校の校長先生に私たちからこういう趣旨で活動を行うので応援していただけないかという形で直接お願いしました。その当時、青少年の非行が問題となっていたということもあり、校長先生も喜んで引き受けてくれまして、当時は生徒会の会員の方々が自主的に参加してくれました。その後、生徒会員が同じ学年の生徒に声をかけるという形で、少しずつ協力いただける生徒が増えて、現在のような状況になっています。
- 質問** 関の子広場パトロール隊の具体的なパトロール方法をお聞かせください。また、関の子広場が開所して刑法犯が激減したということですが、私共の地域ではなかなか減少しません。どのようにしたら刑法犯が減少するのか、お教えいただけますか。
- 回答** 特別パトロールを厳しく実施しているわけではありません。地域のパトロールに関しましては、クルマにパトロール用のステッカーを貼って、大体午前中1回、午後1回、見回りを行っています。犯罪が減った理由は、さまざまな活動の推進により、地域住民、とくに高校生たちの間で防犯に対する意識が高まってきたことが大きいと思います。

千葉科学大学 学生警察支援サークル「スターラビッツ」 (千葉県)



ACTIVE～高めよう！地域の防犯力

徒歩・自転車・自動車、各警ら班による特性を活かした防犯活動

1 活動地域の紹介

私たちの大学が所在し、主な活動地域である千葉県銚子市は、利根川河口南側に発達した醤油醸造と漁業、内陸部の畑作農業並びに犬吠埼を中心とした観光のまちです。

銚子市は江戸時代、江戸と全国を結ぶ物資輸送の水運と海運との分岐点にあたり、物資の積み替え港として発展しました。

銚子漁港は明治時代から現在に至るまで、沖合いや遠洋漁業の基地として全国一、二の水揚げ量を誇っています。

2 団体の概要

(1) 私たちの大学

私たちの在籍する千葉科学大学は、銚子市の南側に位置し、広大な太平洋や日本のドーバーとも呼ばれる断崖絶壁の屏風ヶ浦を一望することができる素晴らしい教育環境の中にあります。私たちの大学は「薬学部」と「危機管理学部」からなり、「健康で安全・安心な社会の構築」を研究目的に掲げています。

(2) 私たちのサークル「スターラビッツ」

私たちの警察支援サークル「スターラビッツ」は、平成18年5月、市内の犯罪抑止や防犯啓発活動を目的に学生10人で発足しました。

発足後の5月31日には、銚子警察署との間で、銚子市内の犯罪抑止と危機管理等の実践を目的とした「地域安全に関する覚書」を締結、以降現在まで警察や市民ボランティア等と連携した防犯活動を展開しています。

(3) 「スターラビッツ」の現在の隊員構成

隊長以下52人の学生により構成され、

ア 第1地域班、第2地域班（徒歩警ら担当）

イ 自転車警ら班

ウ 自動車警ら班

に分割し、各班週1回（月間約16回）のそれぞれの特徴を生かした活動を展開しています。

その他、実動班を退いた上級生が隊指導部として在籍し、防犯活動における様々な指導を実施し、また、広報部も設置、隊員の活動を大学の広報誌や民間報道機関等へ広報し、学生や市民に周知してもらうことにより、活動の円滑化や組織の拡大を図っています。

3 活動状況

(1) 地区防犯ボランティアと連携した活動

銚子市内には私たち「スターラビッツ」の他にも防犯指導員等の防犯ボランティア団体が存在します。

それらの団体の方と日程を調整し、合同パトロールを実施しています。

合同パトロールにより、それぞれの地区の情報を入手したり、時には人生の先輩としての良き相談相手にもなってもらっています。また、「若い者には負けてられない意識」の向上になっているとも思っています。

(2) 青色防犯パトロール車による警戒地域の広域化

平成22年8月には、大学側の全面的な支援のもと「スターラビッツ」に青色防犯パトロール車を導入し、パトロールによる防犯活動の機動性が向上し、より一層の広域化を図っています。しかし、本年3月の東日本大震災による津波により、本大学も被災し、初代青色防犯パトロール車も廃車となっしまい、現在は2代目の青色防犯パトロール車が活躍中です。

(3) 立ち寄り所を指定した情報交換

市内の幼稚園や土産物店、コンビニエンスストアの協力を得て、私たちの「立寄所」に指定させていただき、「警察官立寄所」を模した「スターラビッツ立寄所」のプレートを貼付、主に徒歩パトロールの際に立ち寄り警戒を実施し、情報交換を行っています。時には、おやつをいただき、最近のおやつ事情についての情報交換を実施することもなどもあります。

(4) 警察署との連携

「スターラビッツ」では月1回、警察署において「PS会議」を開催しています。

「PS会議」の内容は、警察署側からは市内の犯罪に関する最新情報の提供、スターラビッツ側からは各警ら班ごとの活動報告や警らにより気が付いた事項、例えば少年のい集場所等の情報交換などを実施しています。

また、年に2回程度、警察署の道場において警察本部の術科の先生による護身術訓練を実施していただき、有事の際の事故防止を図っています。

4 今後の活動目標

「スターラビッツ」では、今後の目標として小・中学校における薬物乱用教室等の実施を計画し、警察署と調整中です。

千葉科学大学 学生警察支援サークル 「スターラビッツ」(千葉県)



こんにちは。千葉県銚子市から参りました千葉科学大学学生警察支援サークル「スターラビッツ」です。私は、隊長の木崎と申します。今日はよろしくお願ひいたします。

こちらは、千葉県警察銚子警察署生活安全課後藤課長、千葉科学大学危機管理学部教授の坂井先生、そして本日パソコン等を担当する善当と田中です。

それでは発表をはじめさせていただきます。

活動地域の紹介

私たちの大学があり、私たちの主な活動地域がある千葉県銚子市は、利根川河口南部に発達した醤油醸造と漁業、内陸部の畑作農業、並びに犬吠埼を中心とした観光のまちです。

私たちの在籍する千葉科学大学は、銚子市の南部に位置し、広大で太平洋や日本のドーバーとも呼ばれる断崖絶壁の屏風ヶ浦を一望できる素晴らしい環境の中にあります。

大学とサークルの紹介

「人を助けたいという人の大学」ということで知られる私たちの大学は、危機管理学部と薬学部からなり、健康で安全・安心な社会の構築を研究目標に掲げています。

私たちのサークル「スターラビッツ」は、学生有志10名が平成18年に立ち上げました。発足後すぐに銚子警察署との間で、こちらの地域安全に関する覚書を締結しています。以後、警察と連携した防犯活動を展開しています。

スターラビッツとは？

学生有志10名が平成18年5月19日に立ち上げた。

銚子警察署と防犯活動を強化するための「地域安全に関する覚書」を締結している



マスコットキャラクター



エンブレム

POLICE SUPPORTER
STAR
RABBITS

ロゴ

スターラビッツの制服



こちらは、サークルのマスコットキャラクター、エンブレム、ロゴです。私たちが現在着ているのが制服となっています。

現在の隊員数は53名です。執行部が中心となって防犯対策を行っています。先日までは地域第1班、地域第2班、自転車警ら班、自動車警ら班の4班体制でしたが、つい最近、防犯教室、薬物乱用教室等の啓発活動を受け持つ班が独立して5班体制になりました。また、自転車警ら班は、バイクを含めて遊撃二輪警ら班に名称を変更しました。

各班の活動内容

続いて、私たちの活動をご紹介します。

まず、防犯パトロールの活動です。これは一番メインの活動です。防犯パトロールは、5班のうち、地域第1班、遊撃二輪警ら班、自動車警ら班の3班が行っています。

まず、地域第1班の活動ですが、

パトロールは大体週1~2回、防犯会議を月1~2回行っています。防犯の啓発に役立つ活動はその都度行っており、LFPとって、これはLast Friday Patrolの略ですが、月の最後の金曜日にパトロールを行っています。これを警察官や、防犯指導員、地域の防犯ボランティア団体の方と一緒にしています。

次に、遊撃二輪警ら班の活動ですが、

主に自転車やバイクで防犯パトロールを行っています。銚子は非常に細い路地が多く、バイクの機動力を活かしてきめ細かく広域的にパトロールを行っています。

活動内容は、防犯パトロールは週1回、交通立寄所月1回、自転車盗難防止の啓発月1回、その他の各種啓発活動、事故対応がその都度で、自主訓練が月1回等となっています。

次に自動車警ら班の活動ですが、

平成22年8月、大学の全面的な支援により、青色回転灯防犯パトロールカー、通称「青パト」を導入しました。主に、この青パトを使ってパトロールしています。

活動内容は、防犯パトロールを週1回、交通立寄所への立ち寄りを週1回、市立銚子高校での自転車啓発活動を月1回、その他の各種啓発活動、事故対応をその都度行い、自主訓練を月1回行っています。悪天候、台風などの際、道路の安全のためのパトロールを行ったりもしています。また、落下物処理という活動もあります。道路上の落下物が事故を引き起こす危険があるため、見つけたら処理をしています。

以上3班の活動内容を発表しましたが、次にその他の2班の活動について発表します。

まず、地域第2班です。

大学に遠くから通学しているためなかなか時間をつくれな人たちがこの地域第2班に所属しています。

これまでの説明で「立寄所」という言葉が何度か出ていますが、市内4か所のお店、幼稚園、公園や駅などを私たちの立寄所として指定させていただき、「警察官立寄所」を模した「スターラビッツ立寄所」のプレートを貼ってもらっています。地域第2班は、徒歩パトロールの際にこの立寄所で市民の方々と情報交換を行っています。

その他情報交換の場には、「PS会議」、班会議、リーダー会議などがあります。「PS会議」のPSとはPolice Station、警察署のことで、月に1回程度、警察署の会議室をお借りして情報交換を行っています。先月の反省点、今後の活動方針や活動内容を確認したりしています。

千葉県には、「ブルー・スターズ」という自主防犯活動への意欲のある若い世代による防犯ボランティア団体があり、私たち「スターラビッツ」も所属しています。地域第2班は、「ブルー・スターズ」の活動の企画も担当しています。

防犯パトロール
組織の紹介



学生警察支援サークル スターラビッツ 執行部

自動車警ら班

次に、防犯啓発班です。

この班は、先月地域第2班から独立したばかりの新しい班です。まだ、これといった活動はできておりませんが、今年から幼稚園、小学校中学校高等学校で防犯教室や薬物乱用教室などを行っていく予定で、それに向けて今計画や話し合いを進めている状況です。

また、その他にも、幼稚園訪問や各種啓発活動にも参加します。

最後に、広報班について説明します。

この班は、実際に防犯パトロールなどを行ったりする先程までの5班とは別に、広報部として構成されています。

活動内容は、ポスター、チラシの制作、ホームページの運営等です。

ビッグプロジェクトの紹介

次に、私たちが最近行った大きなプロジェクトをご紹介します。プロジェクト名は、「銚子ドーバーライン違法ビラ撤去大作戦」です。

銚子ドーバーラインとは、銚子の屏風ヶ浦に沿って走っている道路です。この写真を見ていただいてもわかるように、違法のビラが大変目立つと思います。これらを撤去するわけですが、すぐ近くをクルマが通る危険な場所での作業のため、いつもこちらをクルマでパトロールしている自動車警ら班の指導の下、安全なクルマの降り方・乗り方を練習した上で行いました。ビラが何枚にも重なっていたりして大変な作業でしたが、ビラを撤去したあとの道路を走るのは快適でした。次は、ただ剥がすだけでなく、いかにビラを貼らせないかという方面からの検討も必要ではないかと考えています。

この他に、最近多くの人々が自転車窃盗の被害に遭っていることから、「自転車窃盗対策本部」を設置しました。今後どのように活動をするかは現在検討中です。



啓発活動

次に、啓発活動についてご紹介します。

これは、飲酒運転撲滅のために、お店の方に啓発をお願いしている写真です。

これは、今ご紹介した自転車窃盗防止の活動の様子です。この市立銚子高校は、自転車盗難防止推進モデル校に指定されています。

また、振り込め詐欺に対する啓発も行っています。銚子市内でも振り込め詐欺の被害が発生したと聞きました。銚子はとくにお年寄りが多いので注意しなければならないと思いました。最近、振り

込め詐欺ではなく、『しじみ』買いませんか』と訪れて代金をだましとる詐欺が市内で流行っています。皆さんも十分注意してください。

これは、交通安全フェアのときの写真です。こういった市民の方々との交流・啓発の場は、市民の方々に私たちの顔、ユニフォームを覚えていただき、また私たちも市民の方々の顔を覚え、市民の方々とによりよい関係を築くために絶好の機会だと思っています。



警備活動

次に、警備活動についてご紹介します。



交通規制。これは銚子の商店街の「軽トラ市」のときの写真ですが、毎月第4日曜日に行っています。今日も第4日曜日なので、銚子ではうちの隊員が頑張っていると思います。

駐車場誘導。大学の入学式や卒業式のときに行います。

これは、大会の警備を全て任されたときの写真です。大会の規模が大きかったため大変でしたが、交通誘導、会場警備・巡回などを行いました。



これは、接触事故の現場で警察に通報しているところです。警察が来るまでの対応、受け渡しを行いました。

緊急警備。交通事故現場、火災現場で行う活動ですが、交通整理が主な担当で、救急車などで道路が塞がれているような場合に、安全に一般自動車が通行できるよう誘導したりしています。

最後の緊急警備を除いて、年間20回以上、200時間を超える警備活動を行っています。お祭り等、警備とは別に地域ボランティアとして参加しているものもあります。警備を通して多くの市民とふれあう中で、市民、地域について多くの情報を得ることができます。

市民から警察へ直接言いにくいことも私たちが中間に入ることで、市民から私たちへ、私たちから警察へと伝えることができ、まちぐるみの防犯に役立てることができます。



演習・訓練



そんな私たちですが、学外のパトロールや啓発活動といったメンバーでの活動とは別に、演習・訓練を行っています。

まずは、総合訓練。自転車は学校の駐車場、自動車・バイクは銚子市内の教習場をお借りして、銚子警察署交通課の指導のもとに運転技術の向上を図っています。貨物処理や警備の誘導の方法なども訓練しています。これは、防犯を掲げるものが自ら違反をしてはならない、また他のドライバーの模範となろうという意

識のもと行っています。その他、警察や警備会社に護身術講習を実施していただき、有事の際の事故防止を図っています。

災害派遣

3.11の東日本大震災では私たちの大学も被災しました。私たちは大学の職員と学生消防隊の方々と共に作業を行いました。

この写真は銚子市の隣の旭市での活動です。土木ボランティアではなく、赤十字と連携して防犯巡回、会場管理等を行いました。

また、8月には、岩手県の釜石市で、避難所に物資を届ける作業等を行いました。これは大学としての派遣でした。さらに、9月には岩手県陸前高田市、大槌町等で救援活動を行いました。今まだ現地は復旧に至っておりませんので、時間のある方はボランティアに行ってみてはどうでしょうか。



今後の活動目標

今後の課題としては、さきほどもご紹介しましたが、市内の各小・中・高等学校における防犯教室、薬物乱用教室、地域の高齢者に対しての防犯教室等を通じて、地域の安全安心のために頑張っていきたいと思っていますので、よろしく願いたします。



- 質問 みなさん素晴らしい制服をつくったり、青パトをつくったりされていますが、財政的な面について教えていただけますか。
- 回答 活動資金としては、学校から出る部費と、サークルとして集めている部費があります。制服はサークルで集めた部費で購入しています。財政的には厳しいですが、市や地元企業の協力も得ながら頑張っています。
- 質問 銚子警察署との間で覚書を締結したということですが、その内容はあなた方から要望したものか、警察から要望されたものか、どういった形で決められたのですか。
- 回答 学生のボランティアサークルと警察、それぞれがお互いにやれることをやろうということで、合同のパトロール、学生パトロール時の不審人物発見等の連絡など、大まかな内容は警察の方で作成して、学生の方からも意見を取り入れるという形で詰めていきました。
- 質問 かなり学生が警察と親密な関係を築いておられますが、どうすればとここまで関係が築けるのでしょうか。
- 回答 私たちはその名のとおり「学生警察支援サークル」であり、学生として、できるかぎりの警察支援を行うことが私たちの活動目的です。そうしたことから、現在のような関係を築くことができたのだと思います。

登美丘地区防犯委員会（大阪府）



合同パトロール みんなで楽しくパトロール

人をつなぎ・世代をつなぎ～防犯を入口にまちづくり

1 活動概要

大阪府堺市の中央東部に位置する登美丘地区は閑静な住宅地です。計画的に開発された良好な住宅地と歴史ある古い街並みも共存し、水辺空間も豊かで自然も残っています。南海高野線の急行停車駅北野田駅を中心に人口約 43,000 人の地域です。

住民を主体とした防犯委員会と地域型NPOさかいヒルフロントフォーラムが中心となり、自治会・各種団体をつなぎ、警察・学校・行政と連携して子どもから高齢者まで世代を超えて200人以上が参加する合同夜間パトロールをはじめとした防犯まちづくり活動を実施しています。人をつなぎ・世代をつなぎ、登下校時の子どもの見守り、駅頭での朝のあいさつ運動、清掃活動、青色防犯パトロール車による啓発活動、文化芸術活動、スポーツ活動等を活発に実践し、防犯まちづくりからスタートした活動を地域のまちづくりに活かしたいと考えています。また、活動に先端技術も取り入れながら、想いの共有が地域向上のカギになり、地域のつながりが課題解決の力になると信じて、崇高な理想を持って、身近な活動に取り組んでいます。コミュニティFM局も開局しました。構築したシステム情報広場の有効な活用も模索しています。

地域活動が新しい社会を構築する。人の力が全てを決する。そのために警察・学校・行政と私たち住民がしっかりと連携してハード面・ソフト面での向上をめざし、安全で安心して暮らせるまちづくりに貢献したいと願っています。

2 主な活動内容

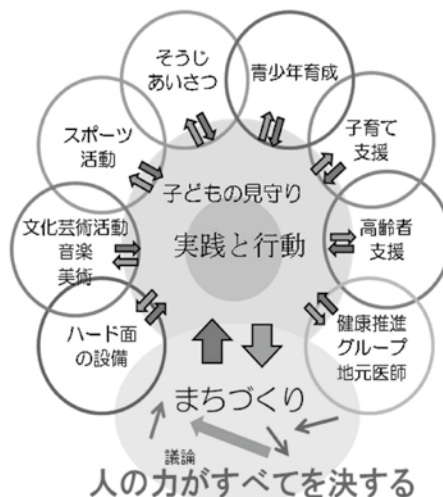
- 大規模合同パトロールの実施（意見交換会も兼ねる。）
- 会議・フォーラム・シンポジウム・ワークショップの実施と文化芸術からの防犯活動
- 防犯灯の整備（センサーライトの設置にはじまり、インバータ式やLEDの整備。防犯カメラの設置。）

- 高校生・小学生と朝のあいさつ運動、防犯スポーツ活動、子育て支援、高齢者支援、清掃活動等
- 青色防犯パトロール車2台の運用（堺市東区登美丘地区と白鷺地区）
- コミュニティFM局からの情報発信と、情報広場による情報共有

3 活動の特徴

(1) 組織

登美丘地区防犯委員会は、地元のNPO法人さかいヒルフロントフォーラムと一体となった活動を展開しています。防犯委員は4つの自治連合会（約100の単位自治会）に属する住民とNPOのメンバーと合わせて約500名で活動しています。防犯まちづくりに取り組む中から生まれた地域の課題解決に向けて防犯だけでなく、さまざまな組織が生まれました。これらの人のネットワークが防災まちづくりや住んで楽しいまちづくりに活きています。また、防犯まちづくりにも還元されていると感じます。防犯委員会には、ヤングサポート隊・防犯ひよこ隊・防犯女性の会・子ども見守り隊をはじめ部会が幾つも形成され、重層的に活動を展開しています。



(2) 活動

地域の風物詩にもなっている約200人による合同パトロール（50人程度は定点で立ち番）をはじめ、さまざまな活動を実践しています。思考は実践と行動だと思っています。地域の若い世代自らも企画し、参加できる事業を実施したいと思っています。「権限を作らない、まずはやってみる、楽しく継続して」を合言葉に、さまざまな活動を進めていきたいと考えています。

(3) コミュニティFMと情報広場

防犯ひよこ隊の隊長である谷昭信氏をメインパーソナリティとして、子どもの見守りをテーマにした防犯まちづくりを中心に据えて、地域のさまざまな方を迎え、素人ばかりでFM放送を実施しています。文化芸術の発信にも力を入れ、行政情報や中学生・高校生による放送も実現できました。警察とは密接な連携を持ち、防犯情報を定時に流しています。情報広場は共通の目標のもとに活動を進めることができるように、位置コードを体系化し、GISと連携したシステムに組み上げ、運用コストが安価で専門的な技術要員がなくても運営できるクラウド型に完成しました。現在、東日本大震災の被災地の支援としてもこのシステムを提供しています。今後、FM放送と情報広場の利活用をより進め、安全安心まちづくりに向けての情報発信に努めたいと考えています。

4 メッセージ

活動を通して本当に多くの方と知り合うことができました。少子高齢化が進み、地域社会のつながりが希薄化している現代社会において、まちづくりの入口として防犯まちづくりに取り組むことは地域社会の再生、教育の再生にとって大きな意味があったと感じています。人のために活動する喜びを共有していくことは明るい地域社会を創るために大きなエネルギーをもたらしてくれます。防犯活動において、私たちの活動がどれほどの効果があったのか分かりませんが、警察署との信頼関係の構築が最も防犯まちづくりに効果を発揮し、犯罪件数も減少した要因だと実感しています。日本国の治安安定のために私たち住民は自ら立ち上がり、さまざまな実践と行動を通じて警察との信頼関係を構築し、行政とも本来の意味の協働を一つでも実現し、安全で安心なまちづくりに、日本の未来に貢献できればと願っています。

登美丘地区防犯委員会（大阪府）



大阪府堺市から参りました、登美丘地区防犯委員会の代表の池崎と申します。よろしくお願いたします。

それでは、登美丘地区防犯委員会の活動をご紹介しますと思います。

活動概要

私たちは、防犯まちづくり活動を進めるに当たり、「人をつなぎ、人のネットワークを構築して、新しい地域社会を創りたい。少子高齢化が進み、日本の財政は悪化し、大きな災害も発生し、輝く将来を思い描くことが難しい状況の中で、地域再生・教育再生を掲げて、心の復興をめざしたい。」と思っています。

では、活動の様子を撮影したビデオ画像をまずご覧ください。

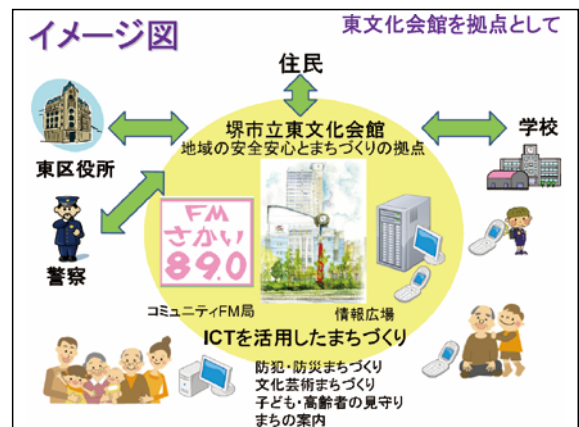
これは、合同パトロールをしている時の様子です。御覧のようにパトロールしています。服装はバラバラで統制がとれていない感じですが、防犯の権威主義を打破し、いつでも住民全ての人に参加しやすい防犯まちづくり活動を、という思いの表れでもあります。10歳代から80歳代まで、いろんな方に参加していただいています。動いている人数が約300名、別に動かないでまちを見守っている人が80名くらいいます。

警察、学校、地域住民の方々と防犯の意見交換を行う中で、いろいろなまちの課題が見えてきました。課題解決に向けて、さまざまな活動が生まれ、それらの活動が防犯まちづくりにも還元されていると感じます。人の力が全てを決する。一人では何もできませんが、みんなの力を結集して草の根の活動を進めていきたいと思っています。

登美丘地区防犯委員会は、住民の自主的な活動からスタートしました。行政から言われたわけではありません。平成17年には、防犯まちづくりのメンバーが中心となってNPOを設立し、現在堺市立東文化会館の指定管理者です。地元の高校生や大学生も協力してくれます。文化会館を拠点としているので、地域の吹奏楽団も結成し、防犯大会などで演奏していただきます。

安全・安心の目標に向かって力を合わす。防犯まちづくりは住民みんなの共通した想いです。フォーラムやシンポジウムもたくさん開催してきました。月に2回程度は意見交換会を定期的に行っています。さまざまな意見が出ます。それぞれ価値観が異なりますので、どの意見が正しいかではなく、出た意見を否定しないことを心がけています。

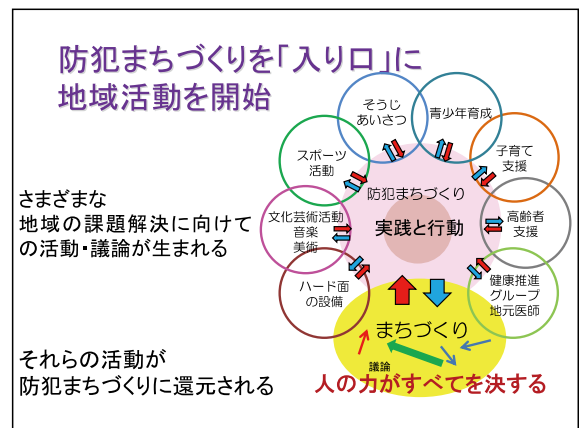
平成19年10月からは「犯罪からの子どもの安全」領域の研究プロジェクトにも取り組む機会を与えていただきました。子どもを見守るだけでなく、子どもたち自らが企画し、参画する事業も数多く実施してきました。



防犯まちづくりから、理想のまちづくりへ

私たちは、防犯まちづくりをスタートにして、地域再生・教育再生に取り組み、新しい地域社会を構築したいと考えています。地域活動はその原動力になると思います。人をつなぎ、世代をつなぎ、政策の責任を住民自らの責任と考え、活動を進めていきたいのです。私たち自らが立ち上がり、自らがまちづくりに参画し、住民のつながりによって課題解決をめざしたいと思います。地域の課題解決が国の命題解決につながると考えています。「想いの共有が地域向上のカギ、地道な地域活動を楽しく継続して」その思いで活動を進めています。

崇高な理想を持って、出来る身近なことから。立ち上げたNPOを中心に、防犯委員会、自治会、その他関係各団体の協力の下に、「自己の権限を排し、相手を尊重し、何ものも排除しない。」という立場を貫きながら、行政、学校、そして企業も巻き込んで、住民と一緒に四者一体の活動を展開したいと考えています。理想とする社会はなかなか到達できるものではありませんが、諦めず、身近な地域の課題に取り組んでいきたいと思ひます。



さまざまな活動を推進

先程申し上げましたように、平成17年に東文化会館の指定管理者になりました。全国的にも珍しい形態ですが、住民だけで管理・運営に携わっています。みんなで力を合わせて一生懸命この東文化会館の事業を企画し、運営しています。

登美丘地区は、大阪府堺市の中央東部に位置する閑静な住宅地です。南海高野線の急行停車駅北野田駅を中心とした人口約43,000人の地域です。

安全・安心まちづくりは、住民主体の活動の入口としては、最適なテーマだと思います。平成19年度からは「子どもの安全」をテーマにした取組も進めてきましたが、地域でのまちづくりのテーマとして、誰からも異論もなく、多くの協力が得られました。このテーマのもとに議論することにより、地域の種々の課題が生まれます。あらゆる人の参加が得られ、どんどん活動が拡がりました。朝のあいさつ運動、清掃活動、子育て支援や高齢者の支援活動、スポーツ活動、また地元医師による健康推進グループも結成されました。これら地域に芽生えた多くの活動全てが防犯まちづくりに活かされて

いると思います。

さまざまな活動を写真で紹介します。

<合同パトロール>

これは、合同パトロールの様子です。青色パトローカーは2台運用しています。登美丘地区防犯委員会はお金がありませんので、NPO法人によって管理し、動かしています。堺市から青パトの車は提供していただけるのですが、パトカーと同じ色なので、あえてい



ただいていません。警察の活動と私たちの活動には、明確な区別をしておきたいからです。企業の協力や研究プロジェクトの資金で用意しました。

<意見交換会・シンポジウムなど>

意見交換会やシンポジウムの開催風景です。大規模なシンポジウム、小さな意見交換会など、さまざまな会を催しています。

<清掃活動・朝のあいさつ運動など>

清掃活動の様子です。防犯活動のスタート時は、朝6時から公園の清掃を行い、夜は地域の青少年の集まる場所へ出向いて毎日掃除をしてきました。現在は、朝の早い時間や夜中の清掃はしていません。地域挙げての清掃を地元の学生と一緒に年に数回行っています。また、駅頭で朝のあいさつ運動を4年前から始めました。通勤通学の皆さんへ「おはようございます」と元気な声で、高校生約40名と一緒にあいさつをします。当初は誰もあいさつを返してくれませんでした。1年も経てば、皆さんニコリあいさつをしてくれるようになりました。通学の子どもの見守りは登下校時毎日行っています。

<子育て支援・高齢者支援>

東文化会館や地域の会館を拠点にして、子育て支援や高齢者支援の活動もしています。本当に多くの方々に参加していただき、活動を進めています。高齢者の皆様には、一緒に食事会を開催したり、リハビリ活動を行っています。

<防犯灯の整備>

ハード面からの取組として、防犯灯の整備を進めてきました。全国で初めて公道にセンサーライトを設置することからはじまり、インバーター式防犯灯への変換、現在はLED防犯灯や防犯カメラの設置を行っています。行政の補助金を活用して進めている事業です。

<スポーツ・文化活動>

警察官の方も参加頂いて、小学生・中学生・高校生、地域の若者も参加できる大会を開催しています。警察官との対抗ソフトボール大会も行いました。最近では10月16日、運動会を開催し、12月3日は地域挙げての防犯スポーツ大会を開く予定です。

文化活動も活発に行っています。地域の総合文化祭ということで、世代をつなぎ、各種演奏会、作品展、狂言のワークショップ、お茶会等を東文化会館で行います。

<研究プロジェクト>

「犯罪からの子どもの安全」領域の研究プロジェクトに取り組む機会を与えていただきました。子どもの見守りをテーマに活動を進めることにより、地域でのさまざまな活動が活性化され、関わる人の拡がりも大きくなりました。科学的見地からの研究を進めることで、大学の先生方との連携も深まり、学生の若い世代の協力もいただき、私たちの地域活動が画期的に深化したと思います。研究で得られた財産を大切に、活用していきたいと考えています。

<「コミュニティFM」と「情報広場」>

想いの共有が地域向上のカギ



フォーラム・シンポジウム・意見交換会



地道な地域活動を楽しく継続して



あいさつ運動
清掃活動




平成22年にコミュニティFM局も開局しました。毎日24時間放送しています。防犯ひよこ隊隊長である谷昭信氏をメインパーソナリティとし、地元の小中高校生にも参画してもらっています。また、地域の防犯活動をしている住民はどなたでも放送に参加していただいています。警察とは、特に密接な連携を持ち、防犯情報として地域に密着した防犯ニュースを毎日流しています。また、情報共有を進めるツールとして、「情報広場」のシステムを立ち上げました。位置コードを体系化し、GISと連携したシステムで維持費が安価で、専門的な技術要員がいなくても運営できるクラウド型に完成しました。東日本大震災の被災地においても利用していただいています。今後FM放送と情報広場の利活用を進め、安全安心まちづくりに貢献できればと願っています。

コミュニティFM

エフエムさかい 89.0MHz

- 警察や住民と連携した防犯情報の発信
- 小・中・高校生による番組の企画・発信
- 絵本・児童書の読み聞かせ
- 地域活動の告知
- 地元ゆかりのあるアーティストの招聘
- 文化芸術活動の告知
- 地元医師による健康相談
- 防災情報の発信

情報広場との利活用



情報共有システム『情報広場』

お知らせしたい

書き込む

見ることができる

メールが届く

ホームページ
http://www.shff.or.jp

E-mail
890fm@shff.or.jp

FAX
072-234-8131

ツイッターに配信

写真・地図も表示できます
位置コードも表示されます

東文化会館を拠点とした
【防犯まちづくり】【防災情報】【文化芸術情報】を発信・共有



犯罪発生状況

平成12年には登美丘地区で、ひったくりが116件発生していました。平成22年にはその16%にまで減少しました。あまり数字にこだわりたくありませんし、だからより安全になったというわけではありませんが、大きな成果の一つだと思います。私たちだけの力ではありません。なによりも警察との連携による活動の成果、警察との信頼関係の構築が犯罪を減らす一番の方法だと確信しています。

登美丘地区における犯罪発生状況 H12年～H22年

	ひったくり	車上ねらい	顔面ねらい	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	自転車ねらい	路上強盗	総合計		
12年	116	90	52	27	80	113	60	1	539	100%	
13年	82	244	65	40	95	154	42	3	725		
14年	69	203	71	42	81	159	35	1	661		91%
15年	42	119	77	20	102	134	24	0	518		71%
16年	28	67	55	19	89	106	9	4	377		52%
17年	22	67	82	16	100	130	11	0	428		59%
18年	25	63	76	17	57	157	8	0	403		56%
19年	14	42	75	15	39	151	15	2	353		49%
20年	10	36	52	9	30	119	9	0	265		37%
21年	20	32	69	6	22	189	6	0	344		47%
22年	12	23	41	3	17	17	1	0	114	16%	

活動の成果

実現したいこと・できたこと

- 地域のつながりが深まった。**
防犯まちづくりだけでなく、地域住民主体のまちづくりを進める基盤ができたと感じる。コミュニティFM局と情報広場を利活用して活動を深化させていきたい。
- 警察との信頼関係が構築できた。**
防犯まちづくりを進めている中で、警察との信頼関係の構築がまちを安全・安心に導いたと感じます。日本型安全・安心を実現したい。
- 行政との協働がなかなか実現できない。**
さまざまな課題解決の過程で、住民と行政の本来の協働を図りたい。

活動の成果としては、まず、訴えたいのは、防犯まちづくりからスタートした地域活動により、人のつながりが深まったことです。東文化会館の指定管理者になり、住民が企画運営できることにより、私たち自らの活動をそこで実施し、住民の力を合わせての協力が得られ、人のつながりが本当に深まりました。

防犯の観点からは、活動を通じて警察との信頼関係が大きく構築されたことです。この住民と警察との信頼関係こそが、犯罪減少に大きな効果を発揮すると実

地域活動を成功へ導くカギ

1. 活動拠点の確保と活動資金の確保
2. 自らの組織体における権威の排除と他者の社会的権威の尊重
3. あらゆる人を排除しない組織体の形成
4. リーダーとリーダーを取り巻く人の輪の構築
5. 地域のあらゆる活動をそのまま認め、連携を図る
6. 明確な目標(崇高な理想)と具体的な方法論(現実の対応)



感しています。日本は、「世界に冠たる安全な国家」、現在も依然としてそうだと思います。今、ここに、私たち自らが立ち上がって、警察と共に安全安心をめざして進んでいくことが大切だと思います。

他方、行政との「協働」はなかなか実現できていない。本当に難しい。さまざまな議論をし、小さなことでもいいので、本来の意味での行政との協働を成し遂げたいと思います。

地域活動を成功へと導くには、活動拠点が必要です。

活動資金も必要です。しかし、許された状況の中で活動を進めていくために、まず住民自らが立ち上がり、自らの組織の権威を排除し、協力を仰ぐ組織の社会的権威を尊重し、あらゆる人を排除しない組織体をつくり、人をつないで人の和を上げ、崇高な理想を持って、現実の身近な問題解決のために活動することが大切だと思っています。

●質問 300人もの方が合同パトロールに参加されているということが大変印象的だったのですが、これだけの大人数の人を動員するために工夫されているようなことはありますか。

○回答 工夫をしていることは特にありません。防犯まちづくりのテーマは誰でも共感できるテーマであり、何か防犯活動を実践することにより、皆の想いが集まり、その想いの強さが人をつないでいくと感じています。大人数での合同パトロールには異論もありますし、方法論で意見がぶつかることもしょっちゅうです。しかし、まちをより良くしたい想いは、皆が共有できる目標なので、方法はさまざま異なっても、防犯まちづくりの活動は地域の内外に広がると思います。

●質問 さきほど行政との協働がなかなかできないというお話がありました。もう少し詳しくお話しいただけますか。

○回答 距離の遠いと思っていた警察とは非常に良好な関係が築けました。警察は現場をもっているからだとは思いますが。行政とは未だ距離感があると実感しています。防犯まちづくり活動を進めていく中で、行政ともさまざまな接点が生まれますので、本来の協働をたった一つの突破口でもいいので見つけ、良好な関係を構築できるよう努力したいと思います。

経験した例として、私見ですが、住民自らによる防犯活動を呼びかけ実施した時、警察は「これからは皆様の力もお借りして犯罪を防ぐ必要があります。」また、犯罪が減少した時、「犯罪の減少は住民皆様のおかげです。」と言われました。行政の方は「私たちは充分対策を講じている。これからは住民が自ら防犯活動を行う必要がある。」と言われました。活動を進めていく中で、警察との連携による活動が増えます。犯罪の減少は誰が考えても警察のおかげだと思うのです。また、住民自らが立ち上がろうとの呼びかけは、住民自身が自らに向かって行う言葉だと感じるのです。これはほんの一例ですが、相手の立場を尊重していただく警察との信頼関係がまず構築できた所以だと考えています。

防犯パトロール隊かつやま（山口県）



“子供達”へ明るい未来を

安全・安心で住み良い町づくりを目指して

1 活動地域の概要

下関市は、本州の最西端に位置し三方を海に囲まれ水産業、工業、農業、林業、観光業と多岐にわたり活力みなぎる人口およそ284,000人の中核都市です。当隊が日々活動している「勝山」と呼ばれる地域は、48の町で構成される人口およそ25,300人(世帯数11,300戸)の町です。その中で、新下関駅周辺の14の町(人口8,700人、世帯数2,500戸)が当隊の主な活動の舞台となっています。

2 団体結成の概要

平成17年、町内で生じた連続痴漢事件を契機に町内の見回りを開始しました。その翌年からは、町内で放置されている空き缶などのゴミの収集等も加え、こうした活動が契機となり、平成19年には、駅周辺の町内からも同士を募り、4町17名で「防犯パトロール隊かつやま」を正式に結成致しました。その後、毎年少しずつ隊員が増加し、平成23年6月現在では14町34名となり活動の輪が大きく広がっています。

3 活動の特色

当隊は、「子供達へ明るい未来を」をモットーに安全・安心で住み良い町づくりを目指して、毎日欠かさず活動をしています。このため、下関警察署(勝山交番)、下関市役所(勝山支所)等とは、常に色々な点で情報提供を受けたり、お願いごとをしたりと連携を密にしています。当隊の特徴は、隊員各自が興味ある分野で、自分の好きな時間帯に、自分の好きなスタイルで自由に取り組むという仕組みをとっていることです。こうした活動方法は、隊員にとっても無理がなく、住民の防犯や住み良い環境作りに対する関心度を高める上でも効果的であると考えています。また、パトロール中に不審物を発見したり、異常な状況に遭遇した場合は、決して無理をせず直ちに警察署あるいは110番へ連絡するように徹底しています。

4 活動内容と成果

(1) 登下校時の児童・生徒の見守り活動

パトロール区域内には、小学校、中学校が1校ずつあります。児童・生徒を通じて各家庭に配布されている行事予定表あるいは関連の資料を参考に、登下校時の時間に併せて、確実かつ効果的な見守りを毎日行っています。

(2) 駅周辺に設けられた駐輪場の整理

新下関駅(新幹線側)周辺には7か所に駐輪場が設けられています。過去3年間のデータによると自転車・単車等の整理台数は、整理開始直後から急速に減少し、およそ2年間で一定値を示すようになりました。この現象は、利用者の意識の向上と自発的協力姿勢の現れと推測しています。

(3) 町内清掃と見回り

町内の清掃効果については、公園や道路に捨てられた缶、ビン、ペットボトル等を集め、その数で調べた結果、収集開始直後から大きく減少し、駐輪場の整理の場合と同様、およそ2年間で一定値を示すようになりました。この現象は、住民の環境への意識(関心度)が高まったためと推測しています。

(4) 公園の見回りと安全点検(区域内の4箇所)

パトロールを兼ねて毎日ゴミ収集を行っています。それに加えて、公園等の安全点検を行い、市当局と連携し、公園内に死角ができないような対策を講じています。

(5) 活動の活性化～大学生ボランティアとの連携

今年5月に地元の東亜大学で学生による防犯ボランティア団体が結成され、警察署を通じて、合同活動に取り組んでいます。合同活動を通じ、大学生の若さと活力に接することで、隊員が刺激を受け、士気高揚につながり活動の活発化に効果があると感じています。

(6) 調査活動と改善措置

ア 落書きの除去

パトロール中に落書き箇所をチェックし、除去日を決めて一斉に除去しています。

イ 貼付物の除去

貼付物については、パトロール中に発見次第撤去することとしています。

ウ 歩行者用地下通路の清掃等(区域内の4箇所)

地下道は、犯罪等の温床となりかねないため、清掃を兼ねて常に見回るなど注意しています。

エ 不法投棄物の撤去

公園、神社裏、川土手、一般道などで、放置された自転車等をパトロール中にチェックし、自治会主催により一斉撤去日(毎年1回)に撤去しています。

(7) 情報収集と広報活動

警察署、市役所等からの情報は、速やかに隊の活動に反映させ、効果的なパトロールが行えるようにしています。

(8) 活動報告書の作成

毎年、活動内容やゴミの収集状況等の分析をまとめた報告書「住み良い町づくり応援活動」を作成し、会員を始め関係機関や団体等に配付しており、報告書を通じて住民に私たちの活動を知ってもらうことで、隊員の士気高揚につながっています。

(9) 挨拶、声かけ運動

防犯に対する意識の向上や住み良い町づくりを目指して、挨拶と声かけを積極的に行っています。

5 今後の取組み

幅広い地域から一層の隊員の増強を図り、住民の防犯に対する意識(関心度)を高め、安全・安心で住み良い町作りを推進することとしています。

防犯パトロール隊かつやま（山口県）



山口県下関市から参りました防犯パトロール隊かつやまの井上でございます。それから、パソコン関係でお手伝いをいただき、当パトロール隊会計担当の東さんです。よろしくお願いいたします。

「安全・安心で住み良い町づくりを目指して」……これが私たちの活動テーマです。

これより、私たちの活動地域や団体結成の経緯、活動内容、今後の取組等を順を追ってご説明していきたいと思えます。

活動地域の概要

私たちが活動している下関市は、本州の最西端に位置する、人口およそ284,000人の中核都市です。下関市は、水産業、工業、農業、林業、観光業と、多岐にわたり産業が盛んな活力あふれる町です。その中で、私共が活動している「勝山」と呼ばれる地域は、48の町で構成される人口およそ25,300人の町です。パトロール地域である新下関駅周辺は、14の町で構成される人口8,700人の地域です。



団体結成の概要

平成17年10月22日、町内の見回りを開始しました。そのきっかけとなったのは、町内で発生した中学生、高校生に対する連続痴漢事件です。実はその当時私は自治会長をしており、対策を思案する中で、まずは町内を見回ることからはじめてみようということになりました。ところが、実際に回ってみますと、何も起こらない。何もないのは一番うれしいことなのですが、段々何のために回っているのか、自分たちは何をしているのか、と疑問が沸いてくるようになりました。それではせっかくみんなで見回る意味がないということで、何かデータでも取ってみるかということになり、天候・気象のデータを取りはじめました。そして、平成18年1月24日から、町内のゴミ収集もはじめました。平成18年5月16日からは、捨てられた空き缶、ペットボトルなどの数を調べはじめました。さらに、空き缶やペットボトルが捨てられるのは、天候と関係があるかもしれないということで、調べたデータの中にその日の新聞の天気予報欄の情報も加えるようにしました。それを続けていたわけですが、自分の町内だけのデータではあまり説得力がないということで、少しずつ調べる範囲を広げ、データの数を増やしていきました。

このような経緯により、平成19年8月29日に「防犯パトロール隊かつやま」を4町17名で発足しました。その後、毎年少しずつ隊員が増加し、平成23年6月現在では14町34名に拡大。これならば、説得力のあるデータが取れるということで、盛んにデータを取って分析をはじめています。

活動の特色

2 “防犯パトロール隊かつやま” の特徴

- A. 自分の好きなことを
- B. 自分の好きな時間帯に
- C. 自分の好きなスタイルで

防犯への**関心度**を高め、
地域住民の絆を強める。

地域力
となる。

防犯パトロール中、不審物や異常
に遭遇した場合には直ちに下関警
察署あるいは110番へ電話する

自分の好きなことを、自分の好きな時間帯に、自分の好きなスタイルで。これが「防犯パトロール隊かつやま」の活動方法です。制約なく自由にやってくださいということで、自主性に委ねた活動を行っています。ユニフォームを着て町を回れば、そのことが抑止力になります。パトロールを行うことで防犯への関心度を高め、地域住民の絆を強めることができれば、それが「地域力」となって防犯にも貢献すると考えています。ただし、こうした活動を続けていくと防犯パトロール

中に不審物、異常な状況に遭遇することが懸念されます。その際は、直ちに110番通報する、絶対に自分で処理してはいけないということを徹底しています。

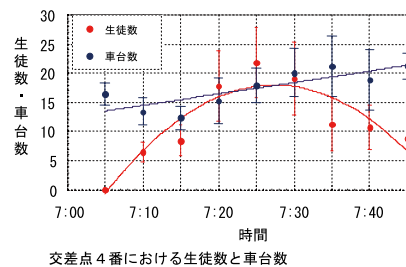
活動内容

地域力を育て、犯罪を生みにくいコミュニティづくりに関連するものは何でもやるということを基本方針として、次の活動を展開しています。

(1) 登下校時の児童・生徒の見守り活動

パトロール区域内には、小学校、中学校が1校ずつあります。児童・生徒を通じて、各家庭に配付されている行事予定表などを参考にして登下校時間に併せ、また、区域内の登下校時間の道路状況を分析しながら、児童・生徒の安全を確保できるよう確実かつ効果的な見守りを毎日行っています。子ども達の横断する交差点における子ども達の人数と車の通過台数を時間に対して分析した結果、7時20分から30分にかけて特に注意が必要となることがわかりました。

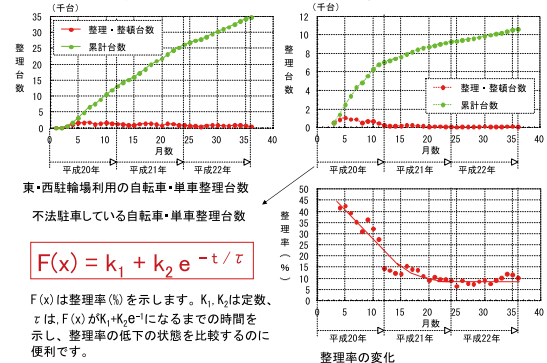
4(1) 登校時の児童・生徒の見守り



(2) 駅周辺に設けられた駐輪場の整理

新幹線の新下関駅は在来線も入っているため、多くの通勤・通学の利用者がいます。駅周辺には7か所に市が認めた駐輪場があり、これらの整理を行っていますが、過去3年間のデータによると自転車・単車等の整理台数は整理開始直後から急速に減少し、およそ2年間で一定の数値を示すようになりました。また、鍵の掛け忘れや防犯登録されていない自転車には警察署から頂いた防犯診断カードを、また、駐輪マナーの悪い自転車、単車には市役所から頂いた通行の迷惑カードをつけることにより、利用者に協力をお願いしています。

4(2) 自動車・単車整理台数に関する分析



(3) 町内清掃と見回り

町内の清掃効果については、平成19年から22年までの4年間で、89.7%の清掃率、ほぼ毎日清掃を行っています。公園や道路に捨てられた缶、ビン、ペットボトル等の数を調査した結果、収集開始後から大きく減少し、大きな効果が得られています。そうした私たちの活動に触発されて、子どもたちが自発的に公園のトイレの清掃をはじめたというようないい話題もございます。

(4) 公園の見回りと安全点検（区域内の4箇所）

4(4) 公園の見回りと安全点検

子供会による公園清掃
企業の方による清掃
子供会による公園トイレの清掃
パトロール隊による公園清掃

パトロールを兼ねて毎日ゴミ収集を行っています。それに加えて、公園等の安全点検を行い、市当局と連携し、公園内に死角ができないような対策を講じています。公園の清掃に関しては子ども会や公園周辺の企業の方々の応援も受けています。子どもが使う公園という性質上、使用目的としてふさわしくないと考えられる、ゴルフの練習、硬式野球の練習、園内での単車の使用などを行っている人には、注意を促し協力をお願いしています。

(5) 活動の活性化～大学生ボランティアとの連携

今年5月に地元の東亜大学に学生による防犯ボランティア団体が結成され、警察署を通じて、合同活動に取り組んでいます。大学生の若さと活力に接することで、隊員が刺激を受け士気高揚につながる効果があると感じています。

(6) 調査活動と改善措置

まず、落書きの除去です。

このスライドは、公園に設置されているパーゴラに書かれた落書きの除去作業風景です。パトロール中に落書き箇所をチェックし、除去日を決めて一斉に除去しています。

次に、貼付物の除去と不法投棄物の撤去です。

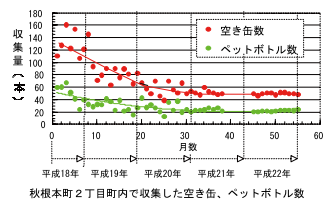
このスライドは、歩行者用地下通路入り口や公園の金属フェンスへの貼付物です。貼付物については、パトロール中に見つけ次第撤去しています。

次に、歩行者用地下通路の清掃等（区内の4箇所）です。

地下道は犯罪の温床となる危険があるため、清掃を兼ねて常に見回るなど注意しています。

また公園、神社裏、川土手、一般道などに放置された自転車などをパトロール中にチェックし、自治会主催の一斉撤去日に撤去しています。

4(3) 町内清掃の効果



$$F(x) = C_1 + C_2 e^{-t/T}$$

F(x)は、収集した空き缶数、ペットボトル数を示します。C₁、C₂は定数で、Tは、F(x)がC₁+C₂/eになるまでの時間を示し、F(x)値の低下の状態を比較するのに便利です。

4(6) 調査活動と改善措置

ア 落書きの除去



4(6) 調査活動と改善措置

エ 不法投棄物の撤去



(7) 情報収集と広報活動

情報収集と広報活動は、警察署や市役所等からの情報を速やかに活動に反映させ、効果的にパトロールを行っています。

(8) 活動報告書の作成

毎年、活動内容やゴミの収集状況等の分析結果をまとめた報告書「住み良い町づくり応援活動」としてまとめ、会員を始め関係機関や団体等に配布しており、報告書を通じて住民に当隊の活動を知ってもらうことで、隊員の士気高揚につなげています。

(9) 挨拶、声かけ運動

防犯に対する意識の向上や住み良い町づくりを目指して、挨拶と声かけを積極的に行っています。

4 (7) 情報収集と広報活動

警察署や市役所等からの情報は、速やかに活動に反映させ、効果的にパトロールを行っています。

4 (8) 挨拶、声かけ運動

挨拶と声かけ運動を積極的に行っています。

4 (9) 活動報告書の作成



今後の取組

今後の取組としては、児童・生徒の見回り箇所を増やす、挨拶・声かけ運動の継続、当会で決めている月の最終週の交通安全週間の継続、ポイ捨て・犬のフンの掃除・防止運動、落書きの除去作業の継続、歩行者用地下通路の見回りを兼ねた清掃の継続等の活動を行っていきます。

そして、防犯に対する意識の高揚、関心度を高めることが、「安全・安心な住み良い町づくり」を目指すことになり、また、子どもたちへ明るい未来を築くことになると信じて隊員一同、毎日活動に励んでいきます。



●質問 先ほど、今年5月に東亜大学に学生の防犯ボランティア団体が誕生したことが紹介されましたが、合同で活動することの効果というものは何かございますか。

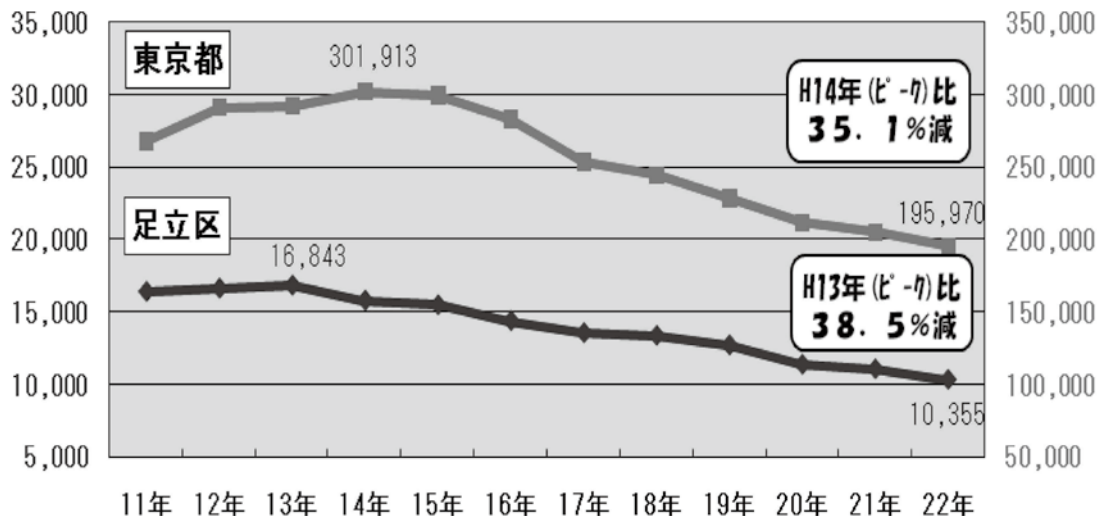
○回答 5月にできたばかりで、まだ学生の皆さんの本当の実力は発揮されていない段階かとは思いますが、しかし、私たちとしては、大学生の若さや活力に接し、若い人たちの視点を学ばせてもらえるという点で大変刺激を受けていますし、隊員の士気高揚にもつながっています。今後は共に活動する中で、互いにデータを出し合って、より深いデータを作成していけるようにもしていきたいと思えます。きっと私たちの素晴らしいパートナーになってくれるものと信じています。

足立区役所（東京都）

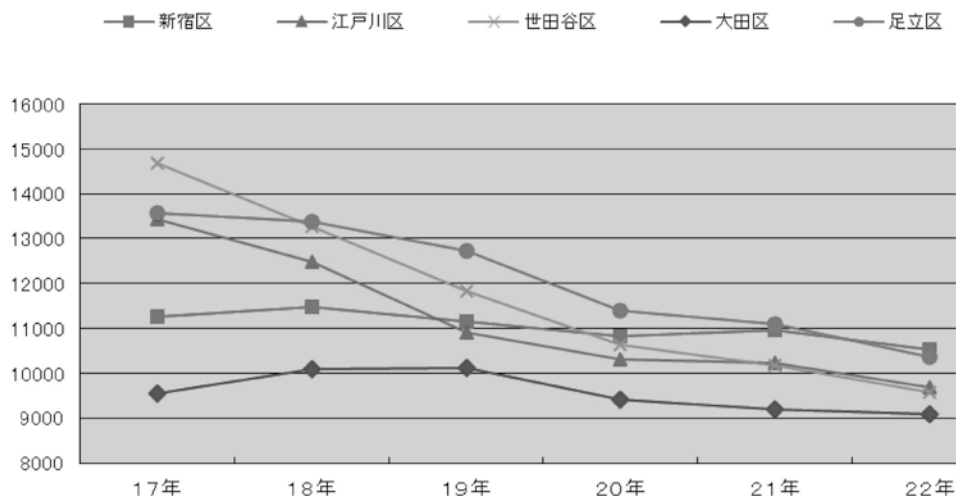
足立区ビューティフル・ウィンドウズ運動～「美しいまち」は「安全なまち」～

1 足立区内の犯罪情勢の推移

- 刑法犯認知件数は、平成 13 年をピークに減少



- 平成 18 年以降 4 年連続、都内ワースト・ワン



2 足立区ビューティフル・ウィンドウズ運動の推進

(1) ビューティフル・ウィンドウズ運動とは

ニューヨーク市で実践され効果をあげた「割れ窓理論」に習い、「美しい窓」、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという区独自の運動です。

防犯ボランティアへの支援としては、物品購入支援（ユニフォーム、停止灯等）等を実施しているほか、毎週1回区ホームページにおいて犯罪発生状況（街頭犯罪・侵入盗・自転車盗）を提供しています。また、毎月20日の「区民防犯の日」には、防犯ボランティア団体と連携して、区内主要駅周辺での被害防止キャンペーンを実施しています。

(2) 警視庁生活安全部と「治安再生事業の推進に関する覚書」の締結

ア 締結日 平成21年12月21日

イ 覚書

- ・ 足立区は、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を始めとするハード・ソフト両面にわたる治安再生事業に全総力を挙げて取り組みます。
- ・ 警視庁生活安全部及び区内警察署は、同事業の円滑かつ効果的な推進を図るため、犯罪実態の分析、情報提供、事業計画の企画・立案等に関する助言、防犯パトロール団体に対する支援その他必要な協力を積極的に行い、これを支援します。 など

(3) 治安再生アクションプログラムの策定と基本方針

覚書に基づき、犯罪のない安全・安心なまちづくりを実現していく諸対策を盛り込んだ「足立区治安再生アクションプログラム」を協働策定しました。

- ・ 「足立区総ぐるみ」の犯罪防止対策を展開する。
- ・ 防犯環境設計による犯罪防止対策を推進する。
- ・ 社会における規範意識の向上対策を推進する。

(4) 重点施策4本柱

・ 治安再生 ・ 生活支援 ・ 美観飛躍 ・ マナー向上

3 本年度の取り組み状況

(1) 目標

平成22年は、刑法犯認知件数ワースト・ワンから脱却したことから、本年度も引き続きワースト・ワンからの脱却を図ります。また、併せて体感治安向上も図るためビューティフル・ウィンドウズ運動の区民認知度向上や、刑法犯認知件数アンダー1万件を目指します。

(2) 分析結果に基づく緊急対策～「がっちり」「ぼっちり」「ぼっちり」大作戦

- ・ 「鍵となる高校生をロックオン！がっちりロック大作戦」

高校生の自転車が被害に遭う割合が高いことから、信用性の高いシリンダー式リング錠取付け作戦を区内高校で実施しています。

- ・ 「ひったくりはイヤ！ぼっちりカバー大作戦」

区内スーパー等で自転車かごカバーの装着キャンペーンを実施しています。

- ・ 「泥棒、近づくな！ぼっちりセンサーライト大作戦」

防犯診断を実施した町会及び区内駐車場を対象にセンサーライトの配布設置を実施しています。

足立区役所（東京都）



東京都足立区長の近藤やよいと申します。今回このような場で、23区ある中で私共1区だけ発表させていただけることを非常に名誉なことと思っております。

今日は、私共が取り組んでおります「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、皆様に2点ぜひご理解いただきたいと思っております。

まず、そもそもビューティフル・ウィンドウズとは何かというのが1点目。そして、こうした治安対策に、警察ではなく行政が積極的に取り組まなければならないのかという、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の展開理由、これが2点目になります。

防犯ボランティア活動に熱心に取り組んでいらっしゃる皆様ですから、ビューティフル・ウィンドウズと聞いたときに、ニューヨークのジュリアーニ市長が提唱したブロークン・ウィンドウズ理論を連想される方もいらっしゃると思います。ブロークン・ウィンドウズ理論は、徹底的な取締り、摘発ということで、警察側が主体となった取組だと理解しておりますが、私たちの「ビューティフル・ウィンドウズ運動」は、もちろん警察にもご協力いただいて、行政と地域を巻き込んだ犯罪抑止環境を整える総合的な運動であるをご理解いただければと思います。

それでは少々お時間をいただきまして、発表をさせていただきたいと思っております。

運動推進の背景

足立区は東京の北東部に位置する区で、面積は23区中3番目、人口は67万人で23区中5番目という、大きな自治体でございます。御陰様で都市基盤整備、交通網等の整備が進んでまいりまして、ここ3年間で2万人ほど人口も増加し、とくに若い世代の人口流入が続いております。都市基盤整備の進捗に伴って、「暮らしやすい」とお感じの区民の方が平成22年度、85.7%ほどいらっしゃったということでございます。

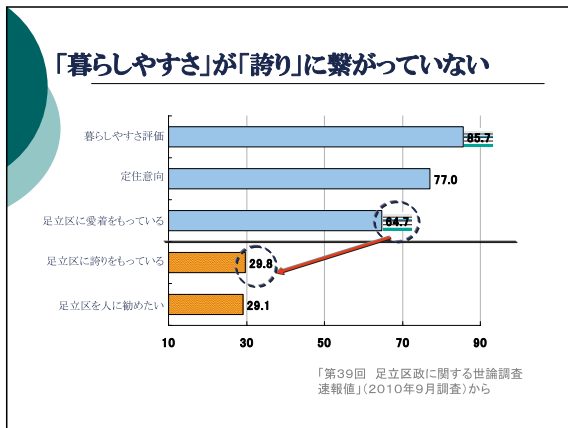
ただ、ここにいいことばかりではない、私共の悩みがございます。それは、他区の方が足立区をどういうふうに見ていらっしゃるかというアンケート調査で、「治安が悪いイメージがある」等のマイナスイメージが多かったことです。あとで、答えた方に「足立区に行ったことがありますか。」と聞くと、「行ったことがありません。」「どの場所にあるか知っていますか。」と聞くと、「わかりません。」という答えが返ってきました。何もわからなくても、足立区と聞くと漠然とこういうイメージを多くの方が抱いているという状況でございます。

また、足立区民は自分の区のことをどのようにイメージしているのかというアンケート調査を行うと、結論からすると、住んでいる人たちも「自分たちの区は治安が悪い」とイメージしているという状況でございます。公園が多く、緑が多い、買い物が便利といったプラス要因と同様に、治安が悪いというイメージを足立区民自体がもっている。「生活が便利」と答えた方は8割強いらっしゃる中で、

他区から見た足立区のイメージ

- スウェット、ジャージで出歩いている人が多い。
- 若者がコンビニの前でたむろしている。
- ニュースで流れる事件発生場所で、足立区の名前をよく聞く。
- 自分は大田区(田園調布)に住んでいるが、足立区は治安が悪いと思う。
- 足立ナンバーの車は、怖い人が乗っていたり、車高が低いものが多い。

ADACHI CITY



このようなイメージをもたれる理由は何だろうか。これを分析することからはじめました。「暮らしやすい」と答えた方が85%、「これからも住み続けたいと思う」と答えた方が77%、「愛着をもっている」と答えた方が64%いるにもかかわらず、「誇りをもてる」と答えた方は半減してしまいます。そして、「人に足立区に住むことをすすめたい」と答えた方は3割を切ります。こういう状況にあります。

つまり、暮らしやすいし、住み続けたいけれども、愛着はあるけれども、人に胸張って「足立区民です」と誇れるところまでは至っていないという、複雑な区民感情をもっていらっしゃる方が多いというのが足立区の実情です。

私共は、「誇りがもてない」と答えていらっしゃる方が5割いらっしゃる、この現状を非常に重く受け止めています。今は、家賃が安いから、若く給料の少ない時期は足立区に住むけれども、ある程度可処分所得が多くなったら誇りのもてるようなまちに住み替えよう。というような思いが透けて見えるような気がするからです。もっと端的に言うならば、足立区は多くの区民にとって、仮に住むまち、ゲートウェイ的な一過性のまちというふうに捉えられているのではないかと、そんな深刻な危惧を抱いております。

高齢化社会の中で、地域住民が支え合っていかなければ地域はなかなか成り立っていかないという現実問題がある中で、こうした地元で誇りがもてないという人の多くは、ボランティア活動や町会活動を中心とした地域活動に参画をされません。やはり、愛着をもっているわけですから、それをもう少し高めて、足立区を誇れるまちと受け止めてくれるような区民の割合を増やしていかないと、次の飛躍がない。ということで、私共行政が取り組んでいるのが、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」です。

誇りがもてない理由としては、治安が悪いということの以外に、生活保護を中心とした財政的な面やお子様方の教育レベルの問題もあります。この2つについても私共今熱心に取り組んでおりますが、これらの問題は一朝一夕に好転するものではございません。しかし、治安の問題、犯罪件数を抑えていくということについては、警察、行政、地域の方々のご協力をいただければ、ある程度早い時期に結果を出せるのではないかと。ということで、私共は足立区のボトルネック的な課題、他にもありますが、まずは、「防犯を一つの突破口」としてこの治安の対策に区をあげて取り組む決断をしたわけです。

では、足立区は本当に犯罪が多いのかと言いますと、刑法犯の認知件数は2006年から2009年まで4年連続で都内ワースト1を記録しています。こうした数字があるからこそ、区民の皆さん方がたぶん足立区は治安が悪いというふうに受け止められるのではないかと思います。ただ実は、人口や面積比で見ると、人口1万人当たり東京都で犯罪が一番多いのは千代田区です。面積1km当たりだとトップは新宿区で足立区は16位です。しかし、ニュースで取り上げられるときには絶対的な数、1年間の刑法犯認知件数だけが取り上げて、足立区がワースト1というという報道がされます。人口比にしたら足立区は14番目などとは書いてもらえないのです。ですから、いくらこのこ

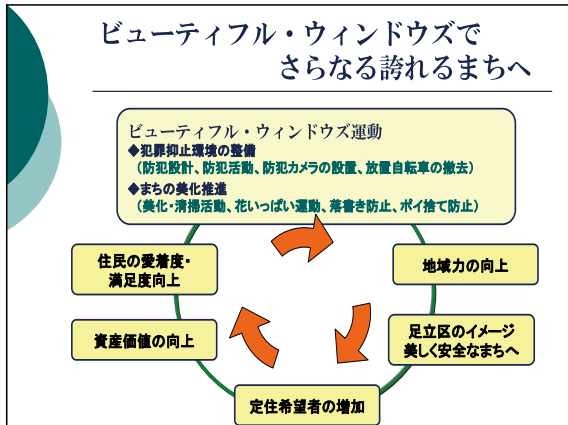
犯罪件数 ここを比べて！

人口比なら
 ・都内14位/62団体
 ・区部 9位/23団体

面積比なら
 ・都内16位/62団体
 ・区部15位/23団体

	人口1万人当たり	面積1km当たり
1	千代田 879	新宿区 579
2	渋谷区 343	豊島区 551
3	新宿区 323	台東区 468
4	台東区 267	渋谷区 464
5	港区 264	千代田区 357
6	豊島区 252	中央区 300
7	中央区 247	中野区 296
8	武蔵野市 225	墨田区 291
9	立川市 223	武蔵野市 290
10	国立市 165	荒川区 284
11	墨田区 162	港区 267
12	福生市 158	板橋区 258
13	昭島市 156	北区 231
14	足立区 152	文京区 201
15	中野区 147	目黒区 198
16	明村市 145	足立区 195

とをご説明しても、区民の方、また区外の方にもなかなか理解されない以上、絶対数を減らしていくことが私共の至上命題だということになります。そして、全体の犯罪件数の中で、3割強は自転車の盗難です。凶悪犯罪が多発する、女性が夜歩けないような、そんな地域では決してないのです。しかも犯罪件数は平成13年をピークに減少に転じ、平成22年では1万件程度と平成13年比で38.5%も減少しています。ただ、犯罪は減っていても、そうした現状を肌感覚で区民が感じ取るところに至っていない。それは私たちのPR不足もあるだろうと反省しています。



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」は、犯罪抑止環境を整備することと、区民の皆様方のご協力もいただき、まちの美化を徹底的に行っていく。つまり、行政、警察、地域の人たちが一緒になってこの運動に取り組むことによって、まず人間関係を密にして、地域力を上げていこう。そして、犯罪を少なくしていくことによって、徐々にではあっても、足立区の負のイメージをプラスに変えていこう。そして、さらに定住してくださる方々を増やしていこう。ということが、

つまりは足立区にお住まいの方の資産価値の向上につながっていく。それが、ひいては住民の地域に対する愛着や満足度を高めていくことにつながっていく。こういうことがスパイラルとしてうまくプラス方向に回っていったときに、この「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の終着点がある、というふうに考えて今展開をしております。

現在までの活動状況と今後の取組

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を推進するにあたって、まず、私共は警視庁生活安全部と「治安再生事業の推進に関する覚書」を締結しました。

足立区内には4つの警察署がありますが、4の警察署で治安に対する取組、重点犯罪も違いますし、温度差もあります。ですから、私たちが4つの警察署それぞれと連携を結んでいても、足立区全体としての統率のとれた活動ができません。そこで、もう一つ上の、警視庁の本部と足立区が覚書を結ぶことによって、警視庁の方から4警察署に対してトータルに組織的な対応を指示していただくことが可能になりました。3か月に1度は生活安全部長にもご同席いただき、警視庁、足立区4署合同の治安対策の戦略会議を開きながら、常に後でお話する「アクションプログラム」を更新する形で事業の進展状況をチェックしております。

これは覚書を結んだ一つの成果だと思いますが、犯罪の発生場所をデータで短期間に警察から私共にいただけるようになりました。常にこれを足立区のホームページに掲載して、犯罪の起こった地域の方々にはお渡しをして、それぞれの地域の防犯パトロールの際にとくに重点的にその犯罪の起こった場所をパトロールしていただくようにしています。

(犯罪発生マップを見せながら) これは平成21年の取組前の空き巣に関する犯罪発生マップですが、

治安再生アクションプログラム

足立区・警視庁総ぐるみの治安対策の展開

【防犯意識向上の取り組み】

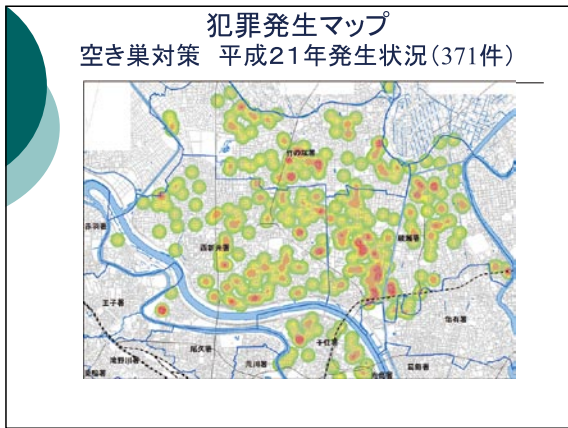
- がっちりロック大作戦、ばっちりカバー大作戦、ばっちりセンサーライト大作戦
- ビューティフル・キーパー（清掃活動、防犯パトロールなど）
- 職員による青色防犯パトロール『足立区特別機動警ら隊』

【防犯設計による取り組み】

- まちの防犯診断の実施
- 防犯カメラの設置（都県境各備付近、主要駅周辺）
- 防犯設計ガイドライン、防犯設計タウン規定制度
- 放置自転車対策の強化（撤去作業365日実施、駅前店舗駐輪2時間無料サービス）

【規範意識向上の取り組み】

- モラル・マナー向上運動（あいさつ運動、モラル標語の募集）
- ゲートウェイ犯罪対策（落書き消し、シャッターアート、万引き防止対策）
- 園休開催に伴う規範意識向上の取り組み



御陰様で1年経ってこういう状況になりました。少なくとも、赤い箇所（発生箇所）が多かったところですから、これがかなり薄くなって、効果が出てきていることがおわかりいただけると思います。とくに駅周辺の治安に問題があることから、主要駅周辺で24時間365日、誰かが駅の周辺に立って声をかけたりパトロールをしているという状況をつくらうということで、ボランティアの皆様が展開されている夜間パトロールや駅前の放置自転車対策などの活動外の時間帯を埋める形で、国の緊急雇用対策予算を活用して「駅前キーパー」というパトロールマンを駅前に配置しました。駅前キーパーには、声かけ運動や自転車対策など、一人で何役も果たすような活動をしていただいております。

美化推進も行っています。緑を増やしたり花を増やしたりするのに、たとえば学校の運動会などで、父兄や生徒さんが自宅から学校まで歩いてくる途中にゴミ袋の中にゴミを拾ってきてもらって、それを学校にもってきていただいた父兄や生徒さんには花の苗や種をお渡ししてゴミと花をトレードするというような運動もしております。この秋にも95件、72,000人の方に参加をいただく計画になっております。



路上喫煙防止パトロールにも取り組んでいます。足立区では、禁止特定区域での喫煙には厳しく規制の過料を科しております。この対応については、警視庁のOBの方に当たっていただいております。

また、民間の方々にお任せしているわけにはいかないということで、先日私共の職員による青パトの警ら隊が発足しました。青パトを運転するには特別な講習を受けなければなりませんので、4,000人弱の職員が全員講習を受けることを目標にしながら、区民の方々

と共に青パトでのパトロールを推進してまいります。

これは新しい事業となりますが、ある一定規模の宅地開発事業者、戸建の開発がある場所には、私共の制定した防犯設計のガイドラインに添った開発をしていただき、そこを防犯設計、つまり非常に犯罪に強い街区であるという認定をさせていただくという制度を新たに立ち上げました。

ということで、なんとか「治安が悪い」という区民の方々のお答えの割合が31.7%から少しではありますが、26%に下がりました。区民の皆様方の体感治安を

防犯設計ガイドラインと認定制度

①防犯設計ガイドライン
防犯への配慮を推進するうえで道路・公園や駐車場・駐輪場の整備、拠点開発事業等を対象にガイドラインを作成

②防犯設計タウン認定制度
ガイドラインに基づき、計画の初期段階から道路や建物の配置計画、防犯設備等について事業者と協議を行い、防犯設計の基準を実現した宅地開発事業を区が認定

例) 見通しの確保された道路、公園とその周辺環境イメージ

向上させるためには、少しでも、区民の皆様に協力をさせていただき、参加をさせていただくことが必要であると思います。そして、自分たちのまちを自分たちでキレイに安全に守っていくんだという機運が広く薄く醸成されたときに、はじめて私は足立区民の体感治安が向上すると思います。

これからも、地域の皆様方、警視庁、そして私共総ぐるみで、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開していき、少しでも多くの区民の皆様方が誇りをもって「足立区出身です」と言えるようなまちを目指してまいりたいと思います。

再来年、東京では国体がございます。足立区では東京武道館で、柔道、剣道、2種目が行われます。そこで、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」のキャラクターである「ビュー坊」も柔道着、剣道着を着てお迎えします。おもてなしをするにも、キレイなまち、安心なまちであることが大変重要ということで、「ビュー坊」にも登場してもらい、ビューティフル・ウィンドウズ運動の盛り上げ、PRに努めたいと思います。

●質問 運動に関して、区民の参加、あるいは若い世代の参加の状況はいかがでしょう。

○回答 区民の方々にご協力をいただけるよう、さまざまな方面にお声かけをし、小中学校のPTAや町会、老人クラブなど、多くの方々にご協力いただいております。手をあげていただいた方々に、帽子やジャンパーなどの基本的な資機材の貸与をさせていただいて、協力をお願いしているところがございます。各地域でそれぞれ団体も出来上がってきておりますし、区民の方々の参加・協力の輪が着実に広がっております。

●質問 行政側と警察側の連携には、お互い縦割りの組織ということで、非常に調整が難しかったのではないかと思います。もしそうした苦労話があれば聞かせていただければと思います。また、運動を通して最終的にどのようなまちづくりを実現させていきたいのか、その辺のお考えもお聞かせ願えますか。

○回答 私、大学を卒業して警視庁で6年ほど勤務しておりました。警察側からと行政側からと2方向から地域というものを見る経験をしたわけですが、その中で、防犯協会や交通安全協会等でお世話になっていらっしゃる方というのは、ほとんど地域の町会長さんや大きな会社の社長さんという方々で、そういう方々はイコール私たち区役所もお世話になっている方々で、警察協力者・協力団体と行政に対する協力者・協力団体はほとんどイコールです。そうした方々に、同じ交通安全や防犯等をテーマとした啓発の部分は行政がリーダーシップをとる形で行い、警察には警察でなければできない逮捕、検挙といった業務に少しでも力点を置いていただけるようお手伝いをさせていただけないかというのが、私共の基本的な考え方でございます。地域の安心安全ということに関して、ただ治安対策ということだけではなく、高齢者の孤独死の問題等もございます。大勢の人たちが自分たちのまちを少しでもよくしていきたい、子どもをきちっと守っていきたくないと意欲を持っていらっしゃるわけですから、そうした気持ちが形になるようなお手伝いをしていくのが私たち行政の一つの役割かなと思います。お互いにあまりおんぶに抱っこをしてしまうと、立ち行かない、続かないということがありますので、うまく関係性をとりながら、お互いWin&Winの関係になるように進めていきたいと思っています。

大垣市役所（岐阜県）

～自らの安全は自ら守る地域の安全は地域で守る～ 安全安心なまちを目指して

1 はじめに(大垣市の紹介等)

大垣市は日本列島のほぼ中央部にあり、来年2012年に「ぎふ清流国体」「ぎふ清流大会」が開催予定の岐阜県南西部（濃尾平野の北西）に位置します。木曾三川の内、揖斐川・長良川流域にあり、全国水郷百選に選ばれた水郷地帯で「水都」と呼ばれ、古くから中山道・美濃路が通る交通の要衝で、経済・文化の交流点として栄えました。また、俳聖「松尾芭蕉」が「奥の細道」の旅を終えたむすびの地でもあります。

2 大垣市における「安全安心まちづくり」取り組みへの経緯

(1) 大垣市（大垣警察署管内）における刑法犯認知件数の推移

平成11年以降増加し、平成14年には過去最高となる5,394件を記録し、様々な防犯対策により、5年連続の減少を見たが、平成19年（3,113件）以降は減少に歯止めが掛かった。

(2) 「大垣市安全安心まちづくり条例」の制定

市民が安全で安心して暮らせる「安全安心まちづくり」に関する施策の基本事項を定め、当該施策を推進し、安全で安心な地域社会の実現に寄与することを目的として、平成20年3月25日付で条例を制定。

(3) 「大垣市防犯基本計画」の策定

条例を総合的かつ長期的に講じる大綱として、「大垣市防犯基本計画」の策定（計画期間2009年度～2013年度、その後5年毎に策定）し、「安全安心な大垣市」の復活を目指した「防犯まちづくり」を推進。

(4) 「大垣市防犯行動計画」の策定

「基本計画」をより具体的に推進するため、1年毎の「行動計画」を策定。

3 「安全安心まちづくり」への取り組み(抜粋紹介)

犯罪抑止等を図るため、従来からの住民・警察・行政など主体による防犯パトロールをはじめとしたソフト面の防犯活動を一層充実・普及させ、ハード面では、学校・公共施設などの整備、配置などの取り組みを推進することとした。

(1) 防犯ボランティアに対する支援など

自主防犯活動の定着化を図り、一層の活性化を促進するために、物心両面の支援を推進することとした。

ア 「さわやか みまもり Eye」～パトロール事業

防犯ボランティア団体や、日ごろから趣味や健康のために散歩やジョギングを楽しむ個人に事業への参加を求め、防犯啓発物品（蛍光ベスト、帽子、腕章など）の支給とボランティア保険費用の負担を行い、防犯活動の輪を広めることにより、防犯意識の高揚と犯罪

の抑止を図っている。

イ 「さわやか みまもり ネット」～メール配信事業

不審者情報を提供し、情報の共有化を図っている。

ウ 大学生ボランティア活動への支援

(ア) 岐阜経済大学

岐阜経済大学のボランティア団体「まちなか共同研究室マイスター倶楽部」と連携・協力し、中心市街地の活性化と魅力あるまちづくりに向けた事業を推進している。

(イ) 大垣女子短期大学

広報紙「広報おおがき」に大垣女子短期大学生による啓発マンガを連載するなど、大学との連携による「安全で心やすらぐまちづくり」の啓発活動を展開している。

エ 「大垣市安全・安心まちづくりステーション連絡協議会」の開催

地元自治会、小中学校、防犯ボランティア、企業、警察等と連携を図るため、連絡協議会を結成し、平成19年には、大型ショッピングセンター駐輪場に、防犯パトロールの活動拠点となる民間交番「大垣三塚地域安全ステーション」を設置するなど、様々な防犯活動を展開している。

(2) 犯罪防止に配慮した施設等の整備

ア 自転車対策

(ア) 条例の制定

(イ) 市営自転車駐車場の整備

(ウ) 放置禁止・整理区域の指定

イ 補助金等活用による防犯カメラ・防犯灯の設置

(ア) 防犯カメラの設置

補助金（地域活性化交付金）を活用し、市内小学校22校、幼保育園23園にカメラ128台等を設置（全て設置完了）した。

(イ) 防犯灯の設置

補助金（社会資本整備総合交付金～活力創出基盤整備：道路事業）を活用し、市道に防犯灯188基（内、通学路74基）を設置、今後も増設予定。

ウ 小中学校、幼保育園に機械警備を導入

市内小学校22校、中学校10校、幼保育園19園（未設置園）に機械警備を導入（全て設置完了）した。

4 施策の効果

各種支援により、防犯ボランティア活動が活性化され、また、支援物品を活用した見える活動により市民の認知度が高まり、地域コミュニティ形成に繋がっている。また、行政の施策等に対する住民の理解・関心が深まり、まちづくりについて住民と行政が互いの特性を認識・尊重し合いながら、共通の課題解決に向けた協力・協調する協働のまちづくりが行われるようになった。

大垣市役所（岐阜県）



みなさん、こんにちは。大垣市生活安全課の岩永と申します。「安全で安心なまちづくり」に関して、先進的で実績を挙げている自治体が数多くある中で、今回、大垣市に発表の機会を与えていただきましたことを大変光栄に感じております。

本日は、大垣市における「安全安心なまちづくり」への取組について、「自らの安全は自ら守る、地域の安全は地域で守る～安全安心なまちを目指して」と題しまして、お話をさせていただきます。よろしく願いいたします。

大垣市の紹介

岐阜県は日本列島のほぼ中央にあり、来年2012年に「ぎふ清流国体」「ぎふ清流大会」が開催される予定です。大垣市は、県南西部、濃尾平野の北西に位置し、木曾・長良・揖斐・の木曾三川のうち、揖斐川・長良川流域にある全国の水の郷百選に選ばれた水郷地帯で、「水都」と呼ばれ、古くから中山道・美濃路が通る交通の要衝の地であり、経済・文化の交流点として栄えました。また、俳聖「松尾芭蕉」が「奥の細道」の旅を終えた結びの地でもあり、今年で市政93年目となる人口約16万5,000人余り、岐阜県下2番目の市となります。

大垣市における「安全安心まちづくり」取組への経緯

(1) 大垣市（大垣警察署管内）における刑法犯認知件数の推移

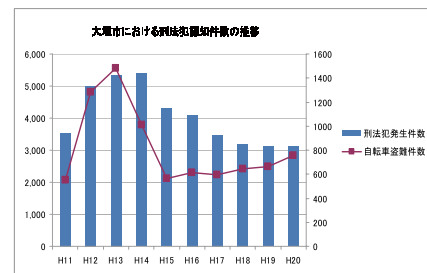
平成11年以降増加を続け、平成14年には過去最高となる5,394件を記録しました。大垣市は、警察や市民、行政等を主体とした防犯パトロールなどの防犯活動を実施し、翌平成15年以降は減少に転じたものの、平成19年には減少に歯止めがかかってしまいました。

(2) 「大垣市安全安心まちづくり条例」の制定

このような犯罪情勢の中、大垣市としましては、今後、市民が安全で安心な生活を営んでいただくためには、市、市民、市民団体、事業者等が連携・協働し、それぞれの立場で防犯活動の推進を図るとともに、大垣市の地域全体が一体となった総合的な対策を図ることが重要な課題となりました。

そこで、市民が安全で安心して暮らせる「安全安心まちづくり」に関する施策の基本事項を定め、これら施策を推進し、安全で安心な地域社会の実現に寄与することを目的とした「大垣市安全安心まちづくり条例」

大垣市における刑法犯認知件数の推移



大垣市安全安心まちづくり条例

- 安全安心な地域社会実現を目的
- 地域全体が一体（連携、協働）となり推進
- 「安全安心まちづくり」に関する基本的施策
- 基本理念

「市・市民・市民団体・事業者等が、自立及び相互扶助の精神に支えられた良好な地域社会を形成する必要性を認識、それぞれが役割を果たし、安全安心まちづくりを推進する」

を平成20年3月25日に制定しました。

(3) 「大垣市防犯基本計画」の策定

条例により、犯罪を防止する施策を総合的かつ計画的・長期的に講じる大綱として、「大垣市防犯基本計画」が策定され、計画期間は5年間で、「安全安心な大垣市」の復活を目指した「防犯まちづくり」を推進することとなりました。この基本計画では、市民生活において身近に発生する犯罪を対象として、犯罪が発生する環境や状況に着目し、その誘発要因を除去することで犯罪を起こしにくい地域を形成すること、つまり、犯罪予防を主に取扱い、侵入盗、自転車盗、ひったくりなどの街頭犯罪、子ども・女性・高齢者等の社会的弱者を狙った犯罪を重点施策対象として、防犯まちづくりを推進することとなりました。

防犯まちづくり数値目標として、平成20年より刑法犯認知件数5%削減、自転車盗難件数10%削減を目標といたしました。

(4) 「大垣市防犯行動計画」の策定

「基本計画」を受けて、各施策をより具体的に推進するために、1年毎の「行動計画」を平成21年度分から順次策定しました。この中で、刑法犯認知件数の20%以上を占める自転車盗を削減するために、自転車盗対策を重点施策として、二重ロックの啓発活動、市営自転車駐車場施設の環境整備、パトロール箱を活用した巡回活動などを推進しました。

大垣市防犯「基本計画」

- 「条例」による施策を総合的、計画的・長期的に講じる大綱
- 計画期間5年(5年毎に策定)
- 安全安心な大垣市を目指した「防犯まちづくり」を推進
- 「防犯まちづくり数値目標」(対H20年比)
 - 刑法犯認知件数 ~ 5%削減
 - 自転車盗難件数 ~ 10%削減

大垣市防犯「行動計画」

- 基本計画を受け、各施策をより具体的に推進
- 1年毎に策定(H21年度から順次)
- 重点施策～自転車盗(刑法犯20%)対策
 - 二重ロックの啓発運動
 - 市営自転車等駐車場施設の環境整備
 - パトロール箱活用による巡回活動などを推進

「安全安心まちづくり」への取組

「基本計画」や「行動計画」による犯罪抑止や子どもの安全などの施策を推進するため、従来からの市民、警察、行政などが主体となった防犯パトロールをはじめとした、ソフト面の防犯活動の一層の充実を図り、ハード面では、市営自転車駐車場の整備や学校等における防犯カメラの設置、道路における防犯灯の設置などを推進しました。これらの取組内容について、抜粋して紹介させていただきます。

(1) 防犯ボランティアに対する支援など

「安全安心まちづくり」の施策の一つである「人材の育成及びネットワークの構築」を推進するために、市民等による自主的な防犯活動の定着化を図り、一層の活性化を促進するために、防犯ボランティア等に対し、物心両面の支援を推進しました。

ア) 「さわやかみまもりEye」～パトロール事業

この事業は、地域の安全を守り、市民が安心して生活できる環境を目指すため、防犯ボランティア団体や日ごろから散歩、ジョギングを楽しむ個人に事業への

「さわやかみまもりEye」～パトロール事業

- 防犯啓発物品を支給
 - 蛍光ベスト、帽子、腕章等
- ボランティア保険費用を負担
- 1年毎の登録制
- 登録者数(H23.8末)
3,687人
(281団体、171個人)

＜活動事例＞
子供、親と一緒にパトロール



参加を求め、大垣市からは防犯啓発物品（蛍光ベスト、帽子、腕章など）の支給とボランティア保険費用の負担を行い、市内全域に防犯活動の輪を広げ、防犯意識の高揚と犯罪の抑止を図るというものです。募集方法は市内全戸配布の広報紙「広報おおがき」などにより募集し、希望する団体や個人が登録制で活動時間や場所等の強制をせず、団体や個人がそれぞれで時間、場所、活動内容を選定して、小学生等の登下校時の見守り、不審者に対する声かけや道路の清掃などの活動をしていただいております。そして、これらの活動を継続的かつ有効的に行っていただくことを促す意味から、1年毎の登録更新を行うこととしました。本年8月末現在、登録者数は3,687人（281団体、171個人）で、平成14年発足当初の3倍以上に増加しております。

イ)「さわやかみまもり ネット」～メール配信事業

大垣市の市政や各種手続方法、イベントなどの情報を希望する方の携帯電話やパソコンへ電子メールを配信する事業の中で、警察からの犯罪、不審者、行方不明者等の情報、学校からの不審者情報を総称して「さわやかみまもり ネット」としてこれら情報をタイムリーに提供し、情報の共有化を図り、防犯意識を高めて犯罪被害の防止を図ろうとするものです。今年8月末現在の「さわやかみまもり ネット」登録者数は17,381人で、警察サイトが5,362人、学校サイトは12,019人です。

「さわやかみまもりネット」～メール配信事業

- ・ 大垣市からの各種情報を希望する方の携帯電話・パソコンへ電子メールを配信
- ・ 警察(犯罪・不審者・行方不明者など)・学校(不審者)情報を総称して「さわやかみまもりネット」
- ・ 情報をタイムリーに提供し、情報の共有化を図り、防犯意識を高め、犯罪被害の防止を図る
- ・ 登録者数(H23.8末)
17,381人
(警察～5,362人、学校～12,019人)

ウ) 大学生ボランティア活動への支援

大垣市における「安全安心まちづくり」には、次世代を担う若い世代との連携・協力も必要とのことから、大垣市内の大学に通う大学生ボランティアと連携・協力した啓発活動を推進しました。

◇岐阜経済大学

岐阜経済大学のボランティア団体「まちなか共同研究室マイスター倶楽部」は、当初は空き店舗対策事業としてはじまりましたが、その後、このボランティア団体と平成18年2月に大垣市、大垣商工会議所、商店街振興組合連合会との間で中心市街地活性化のために協定が結ばれ、4者が連携・協力して中心市街地の活性化と魅力あるまちづくりに向けた事業を推進しています。大垣市は、「まちなか共同研究室マイスター倶楽部」へ補助金等で活動を支援しており、活動例としては、大垣市の各種イベントなどの行事に参加しての啓発活動、JR大垣駅前付近の清掃活動、パトロール事業「さわやかみまもり Eye」への参加などがあります。

◇大垣女子短期大学

大垣女子短期大学のデザイン美術科にマンガ研究部があり、地元大学生の技術を活用し、「安全でこころやすらぐまちづくり」の啓発活動を連携して行うため、マンガ研究部の活動を支援し、同研究部に所属する女子大学生に四コマ漫画の作成を依頼し、作成された四コマ漫画を広報紙「広報おおがき」に掲載するなど啓発活動をしました。また、大垣市も参画して、大安地区防犯協会発行の「地域安全ニュース」にも街頭犯罪抑止などをテーマに作成された四コマ漫画が掲載されています。

エ)「大垣市安全・安心まちづくりステーション連絡協議会」の開催

各種防犯活動を有効かつ連携して推進するため、地元自治会、小中学校、防犯ボランティア、企業、警察等と連絡協議会を結成し、それぞれの活動内容や問題点等を報告して情報交換を行い、今後の活動方針や協力関係の構築を図っています。平成19年5月には、大型ショッピングセンターの駐車場に、防犯パトロールの活動拠点となる民間交番「大垣三塚地域安全ステーション」を設置するなど、様々

な防犯活動を展開しています。この民間交番は、ボランティア団体や警察官等も立ち寄り、意見交換や協働活動の場として利用されています。

(2) 犯罪防止に配慮した施設等の整備

「基本計画」や「行動計画」で推進する施策の一つで、市の施設について、警察庁の指針（平成18年4月20日付け警察庁生活安全局～「道路・公園・駐車場・駐輪場等の整備管理に係る防犯上の留意事項」）に基づいて、防犯上の整備を実施しました。

ア) 自転車対策

◇条例の制定

市民生活の身近に発生する街頭犯罪の中で刑法犯認知件数の20%以上を占める自転車盗難を削減するために、駅周辺における自転車駐輪場の整備と歩道等における放置自転車対策を推進しました。JR大垣駅では1日の利用客数が3万数千人あり、駅周辺における多数の放置自転車等による交通障害や自転車盗難の発生などの問題があり、その早急な対策が求められていました。そこで、県、鉄道、商店街、自治会、民間駐車場、学校などの関係者による「対策協議会」を設立し、協議を重ね、意見集約を行い、有料化、放置禁止区域などの指定について、その必要性や対策推進への理解を得る努力を続け、自転車駐車場整備と放置自転車対策を推進する根拠として、それぞれ「大垣市自転車等駐車場条例」、「大垣市自転車等の放置の防止に関する条例」を制定し、本年5月1日から施行しています。

◇市営自転車駐車場の整備

JR大垣駅周辺には、従来からの自転車駐車場として、駅北自転車等駐車場、駅東自転車等駐車場、駅西自転車等駐車場の3か所がありました。過去に自転車盗難や死角になる場所でのわいせつ事件や暴行事件が発生したこともあり、いずれも警察により検挙されていますが、犯罪予防・抑止の観点から新設・改修により整備を進めることとして、駅北を駅北口開発整備事業の一環として新築整備、駅東を大幅に改修整備、駅西を駅南口開発事業で新築整備を予定しています。さらに、今までは無料であった駐車場を有料化しました。これらの駐車場には、死角をなくすという観点から合計で93台の防犯カメラや複数のモニター、記録装置、防犯ベル等の防犯装置を設置しました。また、有料化に伴い点検業務が加わったことから、係員による場内巡回回数が増加しました。



◇放置禁止・整理区域の指定

「放置防止条例」は、公共の場所における自転車等の放置防止、歩行者等の通行の安全の確保、安全で住みよい生活環境を保持することを目的として、JR大垣駅を中心として概ね半径300mの範囲を放置禁止区域、買い物客等が短時間駐車する商店街などを放置整理区域と定め、本年5月1日から施行となりました。各制限区域に駐車されている自転車等について係員が巡回して確認の上、警告書を取り付ける措置をとり、再度巡回した際に移動等をされていない自転車等を回収、保管所にて一時保管します。この回収した自転車等で盗難被害自転車等に関しては、大垣警察署のご協力により還付等の処理をしており、それ以外の返還可能な自転車については、所有者へはがきで連絡し返還手続きをしています。また、9月からは、回収した自転車の保管場所が整備されたことに伴い、保管料として1,000円徴収しています。

イ) 補助金等活用による防犯カメラ・防犯灯の設置

市町村の財政はどこも厳しいと思いますが、大垣市において各施策を推進するための予算確保が困難でしたが、補助金等の内容を検討し、これを活用してできる施策として、子どもの安全確保として防犯カメラの設置、犯罪防止に配慮した道路等の整備として防犯灯の設置を推進しました。

◇防犯カメラの設置

学校等における子どもの安全確保として、不審者の侵入監視のために、地域活性化交付金を活用して、市内小学校及び幼保育園を対象に、防犯カメラ等を設置することにしました。平成22年度から順次設置を進め、本年6月1日までに全小学校22校、全幼保育園23園に設置しました。設置台数としては、小学校に防犯カメラ68台、記録装置22台、幼保育園に防犯カメラ60台、記録装置23台で、モニターは既存のテレビを活用しました。

◇防犯灯の設置

夜間の道路における暗闇をなくし、人の目を行き届かせ、犯罪抑止や交通事故防止に配慮した設備を社会資本整備総合交付金を活用し、年間200基の防犯灯を目安として、整備設置することにしました。内訳としては、既存の防犯灯を蛍光灯からLEDに整備改修100基、学校や自治会等の要望に基づく防犯灯の新設100基となります。平成22年度には、市道を主として通学路74基を含む防犯灯188基を設置しましたが、来年度は整備設置する防犯灯の数を3倍の600基に増やす予定で、継続して実施します。

ウ) 小中学校、幼保育園に機械警備を導入



小・中学校、幼保育園に機械警備を導入

- ・「基本計画」が策定されて早期導入が決定
- ・不審者の進入抑止、犯罪抑止を図り、監視性を確保するために導入
- ・全小学校22校、全中学校10校、全幼保育園23園に導入完了

<機械警備表示等>



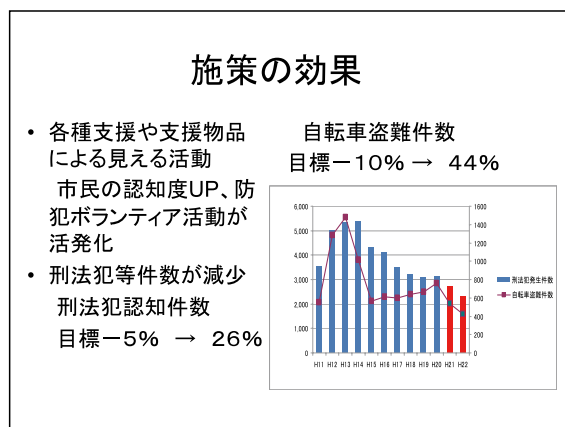
「基本計画」が作成されたことから、小中学校等の施設において、夜間等の不審者の侵入抑止や侵入窃盗など犯罪抑止を図り、監視性を確保するために、できるだけ早く各学校等全ての施設に機械警備を導入することとなりました。平成22年度から機械警備の導入を進め、今年6月までには全ての小中学校、幼保育園に設置が完了しました。今回機械警備を導入したのは、小学校22校、中学校10校、幼保育園19園（他4園は導入済み）になります。

施策の効果

これまでの「安全安心まちづくり」の取組により、徐々にではありますが、その成果が表れてきています。各種支援や支援物品を活用した見える活動により、防犯ボランティア活動が活発化され、市民の認知度も高まり、地域コミュニティの形成につながっています。また、大垣市の施策等に対する市民の理解・関心が深まりつつあり、防犯まちづくりについて市民と行政が相互の特性を認識・尊重しあいながら、共通の問題解決に向けた協力・協調する協働の「安全安心まちづくり」が行われるようになりました。「基本計画」で定められた刑法犯認知件数等の削減目標について、平成22年度末で刑法犯認知件数目標のマイナス5%を上回るマイナス26%、自転車盗難件数目標マイナス10%を上回るマイナス44%を達成し、本年7月末現在の対前年比でも刑法犯認知件数はマイナス119件、自転車盗難

件数はマイナス33件と減少傾向にあります。自転車対策を実施したJR大垣駅周辺における自転車盗難件数は79件から65件で、マイナス14件と大きく減少しています。

まだいろいろな課題がありますが、「自らの安全は自ら守る、地域の安全は地域で守る」という目標を掲げ、市民と行政等が一体となった「安全安心なまちづくり」を目指して努力していきます。



●質問 行政側として、ボランティア団体に対して支援する上で特に気を配っておられる点等ございますか。

○回答 防犯活動を進める上で、行政だけでできない部分が多々ございます。そこで、警察を始めとする他の機関、市、ボランティアなどが連携・協働して行う必要があるかと考え、条例の制定・策定については、さきほどご説明しました「さわやか みまもり Eye」パトロール事業では、防犯ボランティア団体に対し、防犯啓発物品として蛍光ベスト・帽子・腕章などを支給し、ボランティア保険費用の負担など、ボランティア団体に対してバックアップ体制をとり、事業参加につきましては市の広報紙やチラシ配布で参加を呼びかけ、活動内容については団体で独自に決めていただいております。また、防犯活動を献身的に行っている団体を取材し、活動内容・実績を紹介する「みまもり Eye ニュース」という独自の広報紙を年1回発行し、全ての登録団体に配布しています。

そこでとくに気を配っている点が3つございます。

1つめは、気持ちよく活動を行っていただけるような環境づくり。2つめは、ボランティア団体の積極的で自主的な防犯活動の推進。3つめは、他の団体との情報交換の機会をつくり、防犯活動の更なる向上を目指していくことです。

ボランティア活動を長く継続し、ボランティア団体が単独ではなく、連携してできる環境づくりと意見交換のできるシステムづくりのために、市が接着剤のような役割になれるよう心掛けております。

警察庁生活安全企画課都市防犯対策官の赤松と申します。

本日は、地元で創意工夫を凝らし、献身的な取組をさせていただいた4つの防犯ボランティア団体、治安対策に積極的に取り組んでいただいている東京都足立区、岐阜県大垣市の皆様からご発表をいただきました。私共が非常に有意義な時間を過ごさせていただき、非常に参考になったことにつきまして、まずは皆様の発表のご尽力に対して心から御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、私から最後に、まとめのお話をさせていただければと思います。

まずは、ボランティア団体の方々の発表についてまとめさせていただければと思います。

最初に、関の子広場パトロール隊からの発表がございました。こちらの団体につきましては、3月11日の東日本大震災後、非常に厳しい状況下にあるということをご紹介いただきました。そうした中での皆様方の取組は、私共に大きな勇気を与えていただいたような気がいたしました。どうもありがとうございました。震災の中での取組、震災後に放射線量の計測を交えた形での高齢者への見回り活動、さらに平時における取組など、大きな災害後における皆様方のコミュニティの中での治安を守るためのあり方というものを非常に参考にさせていただいたかと思ひますし、あらためてその方々の尊い活動に心より敬意を表したいと思います。

取組の中で特徴的だったのが「民間公番」です。ここを拠点に防犯に限らない様々な活動を展開されているところは、皆様の参考になったのではないかと思います。皆様ができるだけ詰めて、情報発信などの拠点にされている点が非常によかったです。また、青少年、小・中・高校生とのコミュニケーションづくりを学校と協力してやっていかれたところ、さらには、「思い合い」「認め合い」「支え合い」「見守り合い」「声かけ合い」、このようなキーワードの下に、「自ら動ける者は動こう」という姿勢が非常に共感を覚えました。ぜひ自らの手で地域力向上のために進んでいかれることを期待しております。

続きまして、千葉科学大学学生警察支援サークル「スターラビッツ」からの発表がございました。もともと大学で危機管理学部という特別な学部が設置されていて、その活動の中でやるべきことを学びながら、それを実際にやっていこうという、防犯に限らず広く危機管理をやっていこうという中で活動を行われていました。私共警察といたしましても、学校教育の一環として防犯ボランティアというもの、あるいは自主防犯活動というものを活性化するにはどうしたらよいかということを目指しておりまして、そういう方向性の中での発表をいただいたことは非常によかったです。そして、取り組まれている内容が、実際に警察と同じような組織を大学に設けたかのような、非常に区分けされてよく組織立った体制をもたれているということで、学生の方々がこういった形で組織の形を整えて、地域の治安にとどまらない危機管理につなげていくかということの参考になったのではないかと思います。活動内容も、さすがに学生らしい、若々しい活動が随所に見られ、スターラビッツ立寄所など、学生ならではの活動を展開されています。私共が、学生の方々が防犯ボランティアに参加していただくときに期待している、防犯ボランティア活動を通して地域の活性化や地域との交流・絆を深



めることに貢献するという、そうしたことに対して非常に効果的な活動をされているという実感を持ちました。

続いて、3番目にご発表いただいた登美丘地区防犯委員会でございます。こちらは、住民主体の活動を展開するために、コアとなる組織としてNPO法人を立ち上げられて、そこに様々な企業からの支援をいただいたり、このNPO法人の活動を研究プロジェクトとして防犯活動につなげていったりしたところが非常に目新しかったのではないかと思います。防犯まちづくりというのはあくまで入口であって、その先には地域をより良くするための活動があって、その思いを共有することが大切であるというお話がございました。「人の力が全てを決する」という、この言葉を使って今後とも頑張っただけならばと思います。あと一つ、全国的に参考になるのではと思ったのが、指定管理者制度です。文化会館を指定管理者としてお借りして、そこを活動拠点にされているところですが。最初に発表された関の子広場パトロール隊も民間公番を一つの拠点としておられましたが、このように指定管理者制度を活用した活動展開も非常に有効ではないかと思いました。

続きまして、4番目の防犯パトロール隊かつやまでございます。こちらの活動で大変ユニークだったのは、いろいろなことをデータ化して、グラフ化して、その効果までをきちんと見て、それを皆様にフィードバックするというので、報告書にまとめて行政や住民の皆様方に目に見える形でお知らせしているところです。活動によってこれだけの犯罪が減りましたよという成果を具体的に示そうとされている、なかなか我々警察や行政ではできないような、非常にユニークで意義のある活動だと思いました。

そして、今度は自治体からの発表でございます。このフォーラムも6回目となりまして、今回、初めてボランティア団体と自治体の発表とを一緒に行わせていただくことになりました。これは、地域の安全を守るという意味では、警察と最も地元に密着した行政である自治体と地域住民の方々が手と手を取りあって、協力し合うということが非常に重要で、そのための相互理解の場にならないかという思いで、その機会を設けたものです。

まず、足立区には区長自らお越しいただいて、熱のこもったお話をしていただきました。足立区がなぜ「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に取り組んだのか、その内容はどのようなものかということについて皆様十分にご理解いただけたかと思えます。一つ注目されたのが、「防犯を一つの突破口」とおっしゃられていたことです。防犯以外のことも含めたいろいろな視野の広い施策を手がけていきつつ、それがうまくいけば防犯のみならず地域力というものも高まっていくのだという。これは、登美丘地区防犯委員会の方がおっしゃられていた内容と全く同様のことを行政側でも考えられているということで、非常に興味深く感じました。足立区には皆様からご指摘のあったような区民参加の促進にさらに取り組んでいただきながら、区民、警察、行政が三位一体となった取組により、刑法犯認知件数の絶対数での都内ワースト1からの脱却を目指していただければと思います。

最後に、岐阜県大垣市でございます。こちらでも足立区と同じように、まずは管内の犯罪分析をしっかりとされて、その正確な分析のもとに、条例、基本計画、行動計画ということで、三層構造で基本理念を示した上で具体的なアクションプランに結びつけるということをやっておられました。しかも、そのアクションプランの内容は誰がどういうことをするという具体的な対象を絞った形で、それを目に見える形で実施されているということで非常に効果的ではないかと思いました。

以上、個々の発表について私の感想を述べさせていただきました。

最後のまとめになりますが、本日の発表は、震災後の復興の中でのコミュニティにおけるボランティア活動のあり方、あるいは青少年とのコミュニケーション、学生のボランティアとの関わり方、指

定管理者制度を活用しての拠点づくり、自治体と警察、住民が一体となった取組、こういったものについて非常に具体的で参考になる事例がたくさんあったのではないかと思います。そして、安全・安心なまちづくりというものを防犯という次元、治安対策という次元だけに限定せず、広い視野で見えていくことが結果として防犯につながるということを学びました。そのためにできることからやる、自らやっていくということが重要なんだということを実感していただけたのではないかと思います。

ボランティア団体がどこまでやるべきか、あるいは自治体がどこまでやるべきかということについては答えのない話ではあるとは思いますが、まだまだいろいろなご意見があるということも今回わかったのではないかと思います。ぜひ、今日お集まりの皆様方にこれらの非常に貴重なご意見や発表を今後の活動に生かしていただければと思っております。

警察庁としましては、本日発表いただいた内容につきましては、さまざまな機会をとらえて活用してまいりたいと考えております。また、都道府県警察におきましても、皆様方に対する情報提供、あるいは合同パトロールなど、各種取組を進めていくこととしております。皆様方におかれては、ぜひ地元の警察署あるいは交番などと密接に連携をとっていただきながら、引き続き率直なご意見・ご要望を聞かせていただきたく思います。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、本日は熱心なご発表ありがとうございました。

記念品の贈呈

